エト3 J-77
77-359

地理教科書

外國篇

上巻

志賀重昂著

東京 合資會社 冨山房發兌

明治
37 3 16
内交

明治三十七年一月印刷

地理教科書外國篇

上卷目次

第一編　アジア　一
第一章　總論　一
第一節　地文　人文　一
第二節　概說　六
第二章　中央平地帶　九
第一節　朝鮮　九
第二節　支那　一六
第三節　支那に於ける各國占領地　三四
第四節　インド支那　三九
第三章　北部低地帶　四三

第一節　アジア・ロシア　四三
第四章　南部高原帯、　五二
第一節　インド　五二
第二節　イラン地方　五六
第三節　アラビア　五八
第四節　アジア・トルコ　五九
第五章　アジア洲の島嶼　六三
第一節　マライ諸島　六三
第二編　大洋洲　六六
第一章　總論　六六
第二章　概説　六七
第三章　オーストラリア　六八
第四章　メラネシア　七五

第五章　ミクロネシア　七八
第六章　ポリネシア　七九

地理教科書 外國篇〔上巻〕

志賀重昂 著

第一編 アジア(ASIA)

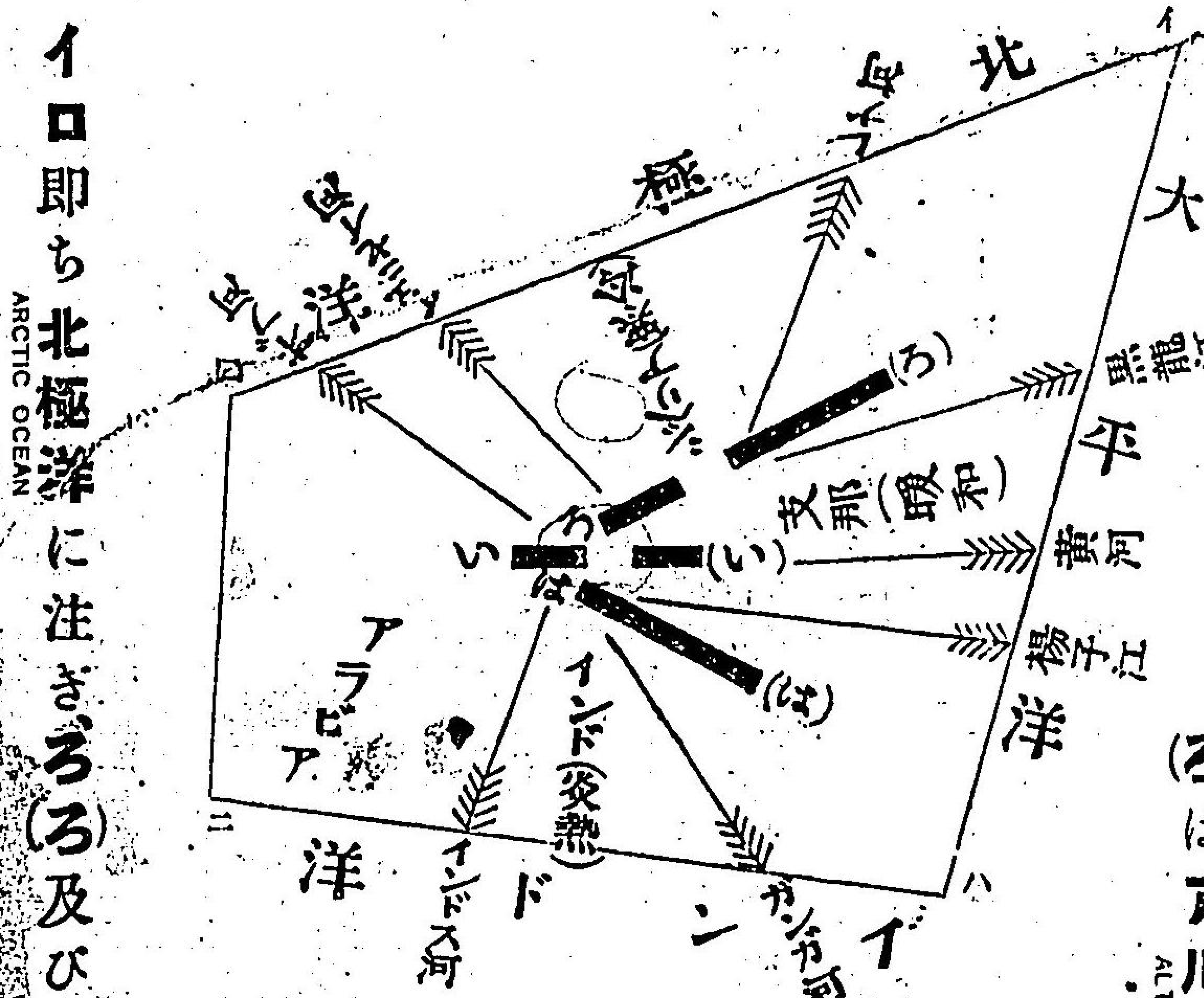
第一章 總論

第一節 地文 人文

一、位置。 アジアは、東大陸の東を占め、北は北極洋(ARCTIC)、東は大平洋(PACIFIC OCEAN)、南はインド洋(INDIAN OCEAN)に面し、西はウラル(URAL)山脈、裏海(CASPIAN SEA)及び黒海(BLACK SEA)を以てヨーロッパ洲に隣り、又スエズ(SUEZ)地峽及び紅海(RED SEA)を以てアフリカ(AFRICA)洲に接す。北は北極圏に入り、南は殆んど赤道に達す。

二、面積。人口。 面積殆んど三百萬方里、世界陸地の三分の一を占む。人口八億五千萬、世界人口の半數以上を占む。

三、地勢。 ○い(い)はヒンヅークシ(HINDUKUSH)山脈及び崑崙(KUENLUN)山脈なり、ろ(ろ)はアルタイ(ALTAI)山脈及びヤブロノイ(IABLONOI)山脈なり、は(は)はヒマラヤ(HIMALAYA)山脈なり。 かくてアジア洲の中央の地勢甚だ高きことを悟り得べく、又洲内大河の水源は必らず此邊にあることをも悟り得べし。 水は高より低に就くものなれば、いろ(ろ)以北の諸河は、イロ即ち北極洋(ARCTIC OCEAN)に注ぎ、ろ(ろ)及びは(は)間の諸河は、イハ即ち



大平洋(PACIFIC OCEAN)に注ぎ、いは(は)以南の諸河は、ハニ即ちインド洋(INDIAN OCEAN)に注ぐことを悟り得べし。 かくて後に地圖と對照して、オブ(OB)、イエニセイ(YENISEI)及びレナ(LENA)の三大河の北に流れ、黑龍江(AMUR)、黃河(HOANG-HO)及び楊子江(YANG-TZ'KIANG)の三大河の東に流れ、ガンガ(GANGES)及びインダス(INDUS)の二大河の南に流るゝの偶然にあらざることを悟り得べし。

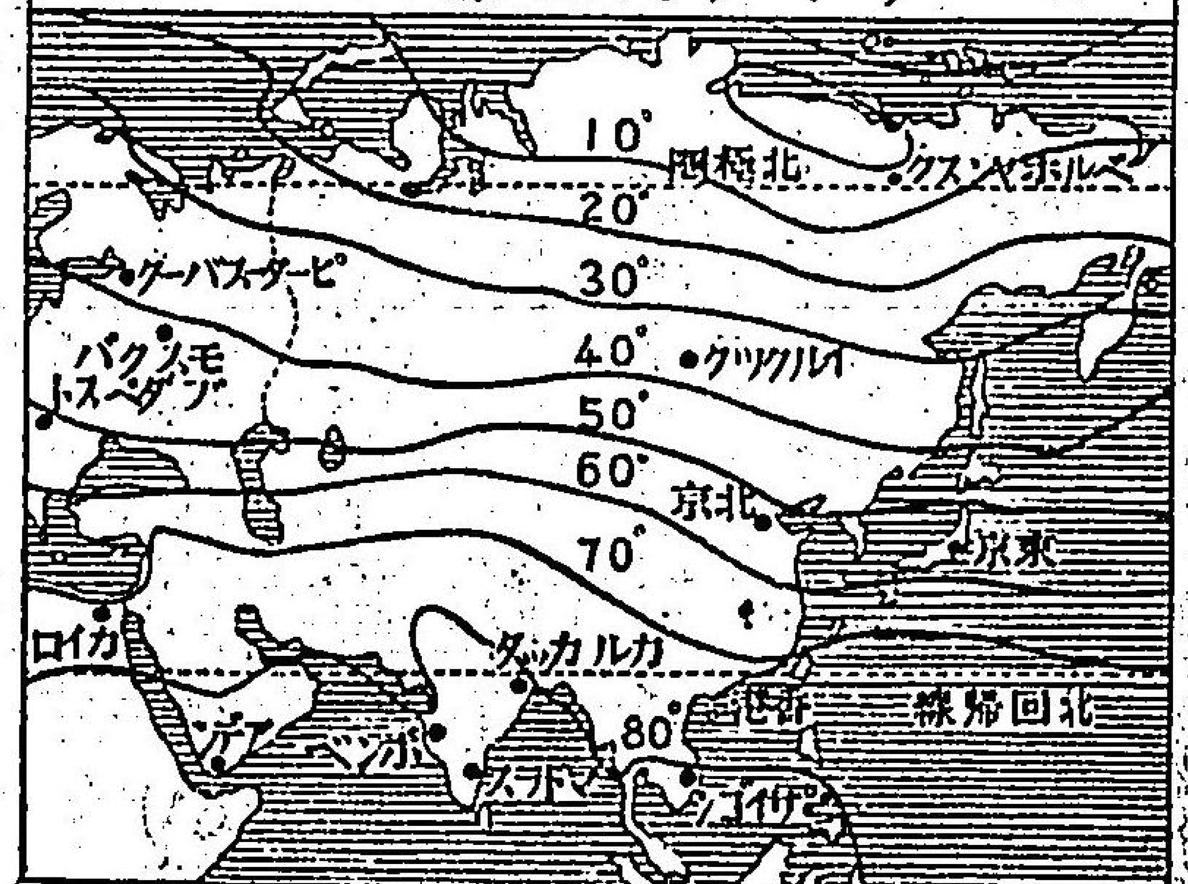
以上の如く、山河の形勢を熟考すれば、アジア(ASIA)大陸は、(一)い(い)、ろ(ろ)及びは(は)の交叉する處、即ち中央高原帶(チベット)(TIBET)、(二)いろ(ろ)以北、即ち北部低地帶(シベリア)(SIBERIA)、(三)ろ(ろ)及びは(は)以東、即ち中央平地帶(支那)、及び(四)いは(は)以南、即ち南部高原帶(インド)(INDIA)及びアラビア(ARABIA)の四大部より成ることを悟り得べし。

四、氣候。 以上の區分に依て熟考し、(一)中央高原帶は氣候寒熱共に極端なり、(二)北部低地帶は寒冷なり、(三)中央平地帶

は温和なり、(四)**南部高原帯**は、炎熱なることを悟るべし。

五、産物。　以上の區分に依て熟考し、(一)**中央高原帯**には重要の天産物なく、(二)**北部低地帯**は、寒冷なれば、植物少く、動物は馴鹿、熊、將た臘虎の如き貴重皮獸を産し、鑛物は金、銀、白金多く、(三)**中央平地帯**は、温和なれば、人生に有要の天産物、即ち植物は穀類、綿、麻、茶の類、動物は牛、馬、羊の類を産し、鑛物は鐵、石炭、銅、鉛多く、(四)**南部高原帯**は、炎熱なれば、植物は香氣將た澱粉質多きもの多く、即ち珈琲、香料、香木、柑類、米を産し、動物は壯大猛烈のもの、即ち象、獅子、虎、豹、

アジア同温線（年平均）。



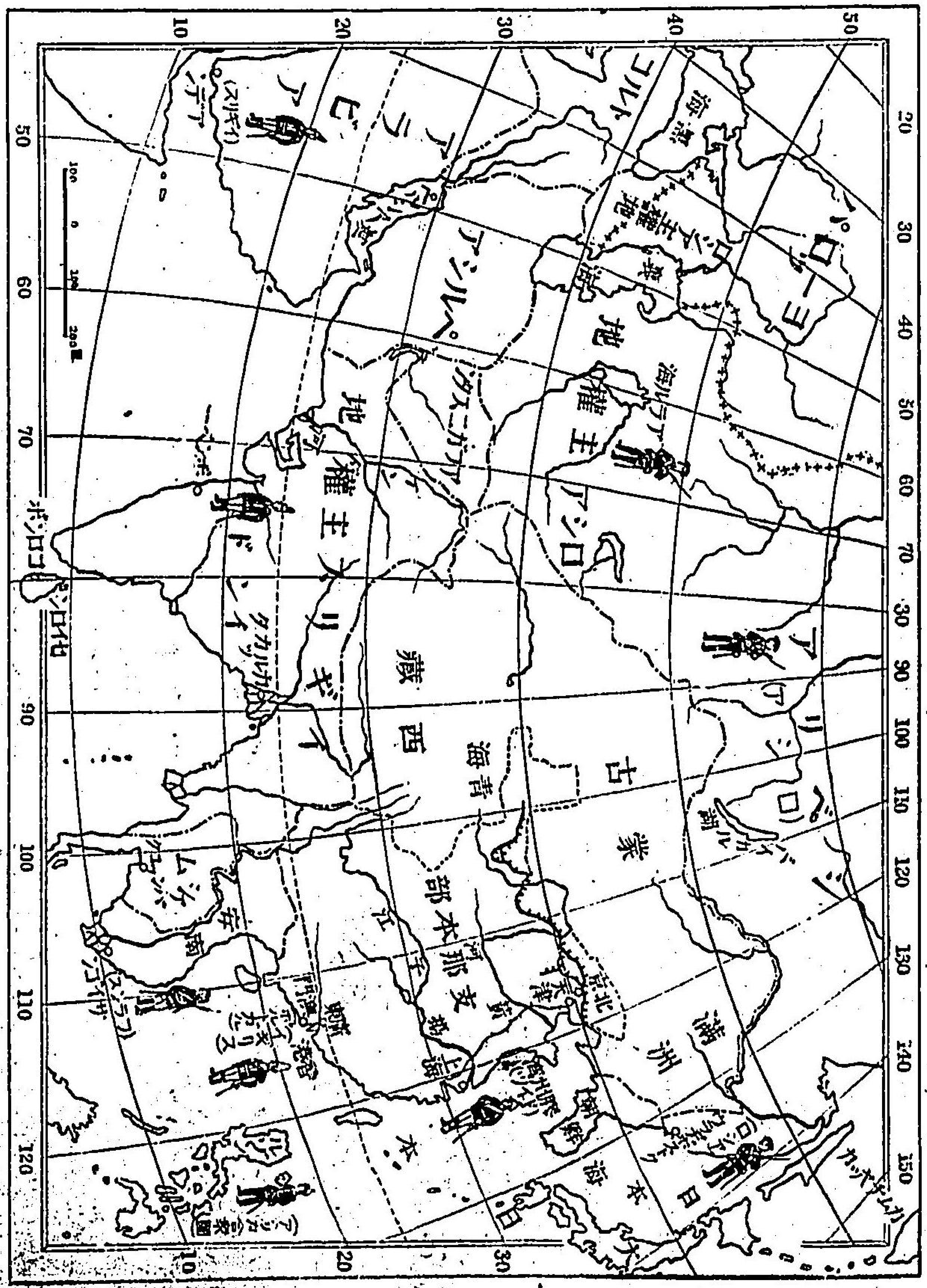
薩滿教は吉凶禍福を主宰すとて精靈を拜する教旨なり魔術を行ふ

以上の如く地文、人文を異にすれば開化も亦四大部に分る

鰐魚、大蛇、駝鳥を産し、鑛物には寶玉多きことを悟るべし。

六、住民。　以上の區分に依て熟考し、(一)**中央高原帯**には、黄色人種及び雜多の人種住み、(二)**北部低地帯**には、劣等なる黄色人種住み、(三)**中央平地帯**には、高等なる黄色人種住み、(四)**南部高原帯**には、カフカズ人種(CAUCASIAN)住めることを悟るべし。

七、宗教。　以上の區分に依て熟考し、(一)**中央高原帯**、即ちチベット人(TIBET)は**喇嘛教**(LAMANISM)を奉じ、(二)**北部低地帯**、即ちシベリア人(SIBERIA)は**薩滿教**(SHAMANISM)を奉じ、(三)**中央平地帯**、即ち支那本部、滿洲、朝鮮、アンナム、シャム(SIAM)、バルマ(BURMA)及び日本は**佛教**を奉じ、(四)**南部高原帯**の東部、即ちインド(INDIA)は**婆羅門教**(BRHAMINISM)將た**回教**(MOHAMMEDANISM)を奉じ、其の西部、即ち中央アジア諸國、アフガニスタン(AFGHANISTAN)、ベルチスタン(BALUCHISTAN)、ペルシア(PERSIA)、アラビア(ARABIA)及びアジア・トルコ(ASIATIC TURKEY)は、**回教**を奉ずることを悟るべし。



日本千島の北、大平洋中のタスカロラ深淵は近年まで世界第一の深海となせり近年グアム島に近き大平洋中に更に深き處を發見す

成吉斯汗(ジンギスカン)及び帖木兒(チムール)の帝國

第二節　概說

土地より云へば、世界第一の面積あり、人生より云へば、世界第一の人口あり、高より云へば、世界第一の高山なるヒマラヤ、世界第一の高原なるチベット(TIBET)あり、低より云へば、世界第一の低地なるヨルダン(JORDAN)谿谷、世界第一の深海あり、廣より云へば、世界第一の曠原なるシベリアあり、大より云へば、世界第一の内陸灌域なるトルキスタン(TURKISTAN)、世界第一の大湖なる裏海あり。人文より云へば、世界の大宗教の開祖たる孔子、釋迦、キリスト(CHRIST)及びマホメット(MAHOMET)は此洲に生れ、世界の最大帝國は再び此洲を根據として起れり。又地形より云へば、ヨーロッパ(EUROPE)洲はアジア(ASIA)の附屬に過ぎず。されども政治上より云へば、

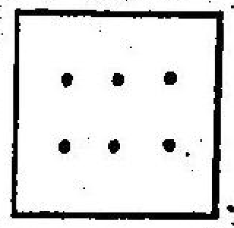
イギリス領 ENGLAND	三〇〇、〇〇〇方里	三〇〇、〇〇〇、〇〇〇人
ロシア領 RUSSIA	一、一〇〇、〇〇〇方里	二五、〇〇〇、〇〇〇人
フランス領 FRANCE	六〇、〇〇〇方里	二〇、〇〇〇、〇〇〇人
ポルトガル領 PORTUGAL	一、五〇〇方里	一、〇〇〇、〇〇〇人

面積の半と人口の殆んど半とは、ヨーロッパ人の手中に入り、其の間に獨立するは、**ペルシア**(PERSIA)、**シャム**(SIAM)、**朝鮮**及び**支那**の四國に過ぎず。**ペルシア**はロシア及びイギリスの間に挾まれ、**シャム**はイギリス及びフランスの間に挾まれ、**朝鮮**はロシア及び日本の間に挾まれ、以て獨立するものなり。獨り**日本**は、儼たる帝國なるのみならず、アジア洲の地勢は、壯大廣濶なれば、今日まで之を開發し得ざりしを以て、未だ無限の餘地と遺利とあり、日本國民たるもの爲す有らざるべけんや。

公文にては韓國と稱ふ

面積一萬四千方里
人口八百五十萬

一方里人口



毎一点百人

日本の地形はアジア大陸に向ひ臥するを以て、朝鮮半島は日本の胸に擬せんとする劍の如し、されば朝鮮の進退は我國の死活に關す

第二章　中央平地帶

第一節　朝鮮(KOREA)

一、位置。 我國と最も近き外國を**朝鮮**となす、アジア大陸より日本海及び黄海の間に突出する半島なり。北はロシア領及び滿洲に接し、南は我が對馬と指呼の間にあり。

二、地勢。 面積は我が本洲に同じ。**長白山脈**は、北、ロシア領及び滿洲を限り、**白頭山脈**これより發してT形をなし、半島を縱貫するを以て、地勢我國に似たり。**白頭山脈**の東側は、日本海に偏するを以て、我國の如く日本海側には、大河少く、出入少く、隨て平地及び港灣少しと雖も、山脈の西側、即ち黄海側には、港灣及び平地多く、隨て**文化**は此處に發達せり。

三、氣候。 大陸性にして、寒暑共に烈しく、冬は河水氷結す、されども南部は溫和にして、我が對島の氣候に似たり。

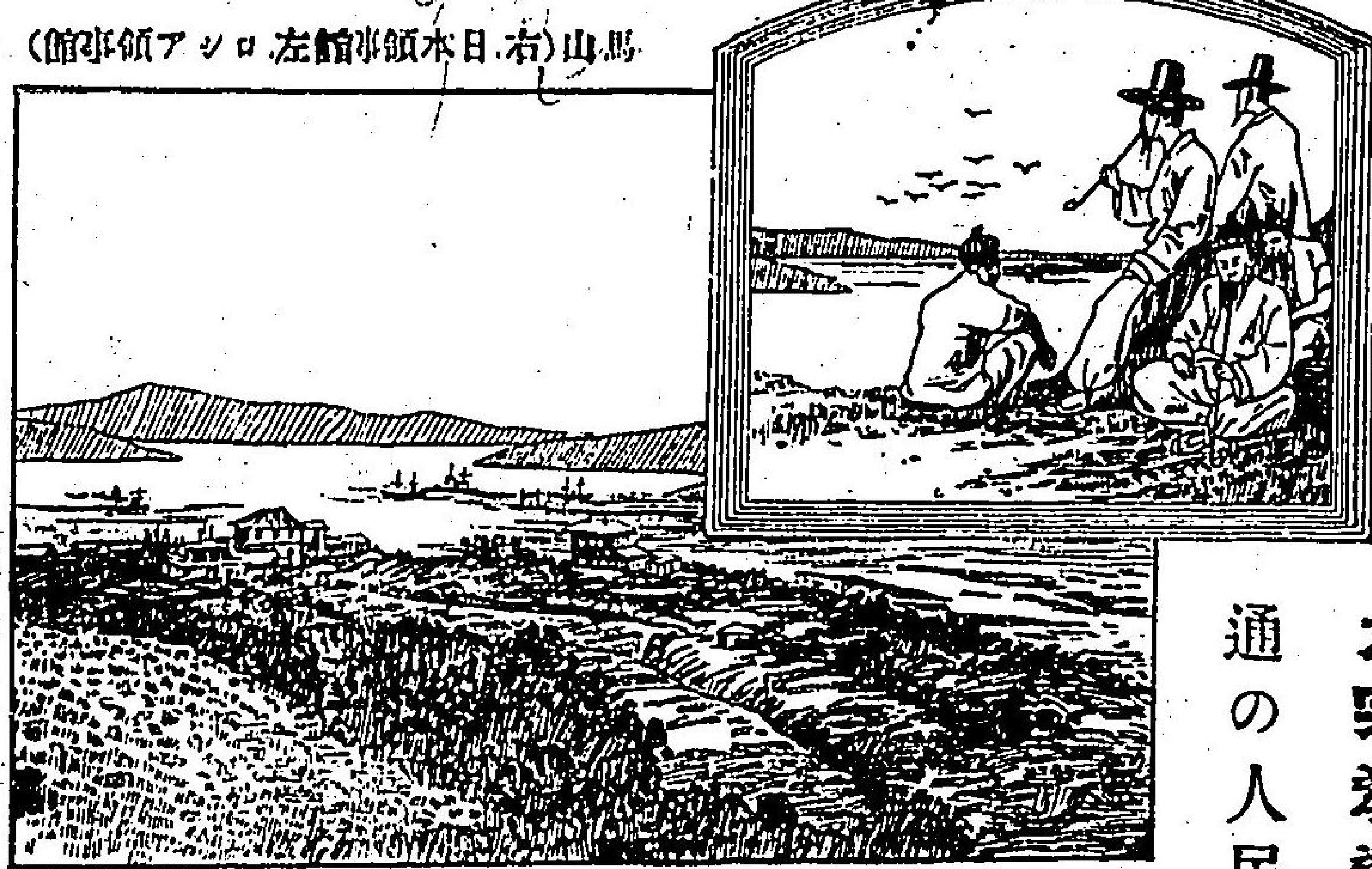
四、產物。 農產國にして、工業と名づくべきものなし。此の農業すら、幼稚なれども、唯だ米、豆の耕作と牧牛とは稍見るべく、我國へも米、大豆及び牛皮を輸入す。 鑛物に富むと雖も、有利なる金坑は外國人採掘せり。 近海は鯨、明太魚、鰑に富むと雖も、其の漁獲は大概我國人の經營する所なり。

以上の產物を主として輸出す。 **貿易總額**は、我國の二十五分の一に過ぎず。 總額の十分の九は我國との取引なり。

五、住民。 蒙古人種に屬す。 朝寢午睡を貪り、喫煙を嗜み、沐浴せず。 門閥の別、嚴格にして、奴隷の制尙ほ存し、女子の位置は頗る卑し。 人心公德に乏しく、政治上の紛糾絕えず。

近年政府及び我國人の建立せし學校にては有用の學科を敎ふ

京仁鐵道は京城仁川の間を連絡す



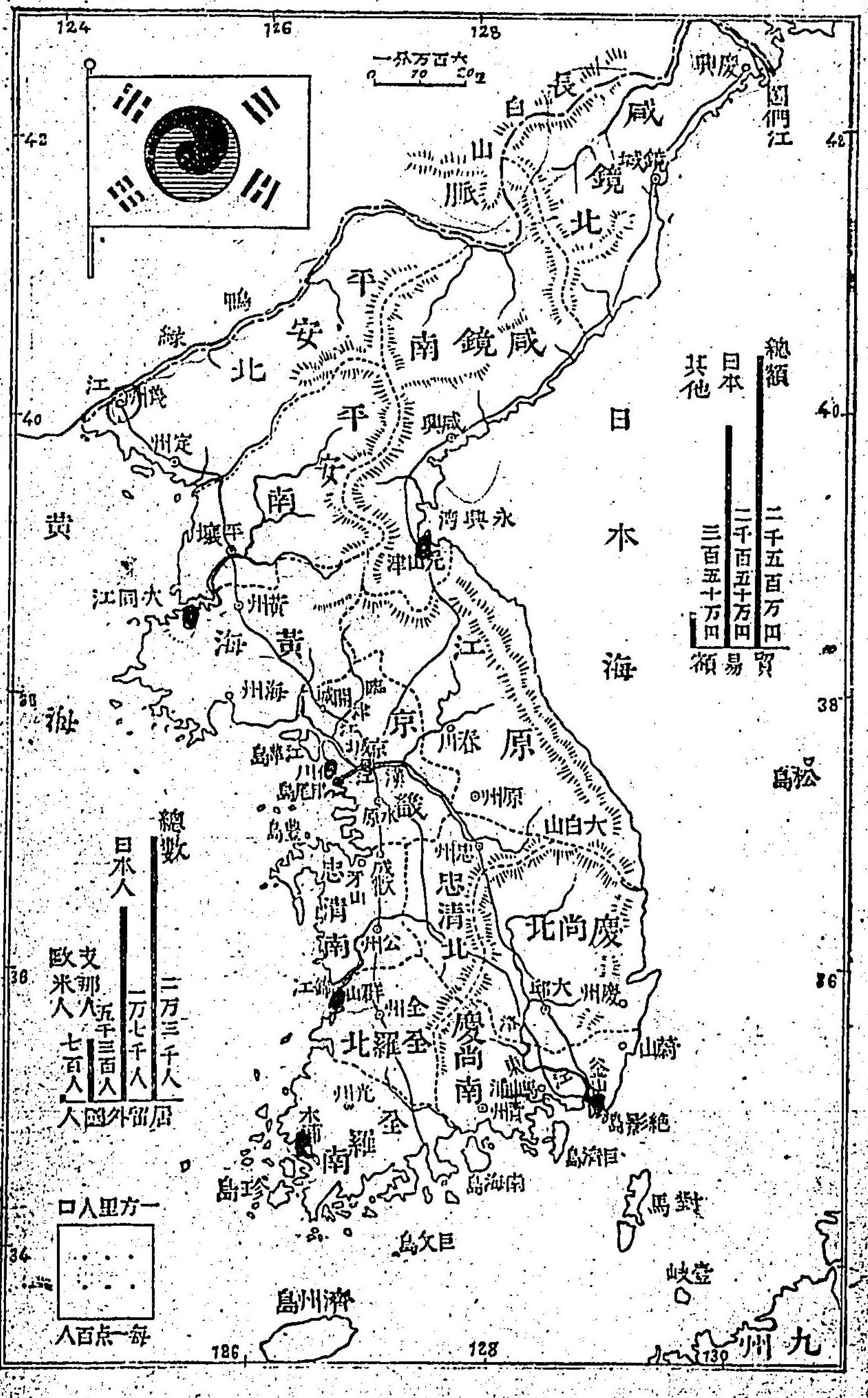
朝鮮の風俗

馬山（右日本領事館左ロシア領事館）

六、宗敎。敎育。 上流には儒敎行はれ、普通の人民は巫女を信じ、佛敎をも信ず。
上流は漢文を習へども、普通人は諺文を用ふ。 要するに虛文を尙びて、實用の學に乏し。

七、政治。 政體は君主專制にして、國を**大韓**と號し、君主を皇帝と呼ぶ。 中央政府は、內、外、度支、軍、法、學、農商工及び警務の八部より成り、各部に大臣を置く。

八、交通。 京仁鐵道は、既に開通し、京、釜鐵道は兩極端より工



京釜鐵道は京城釜山の間を連絡す

中原

京城本名漢城我が新潟と略ぼ同緯度

京城居留日本人三千

仁川居留日本人六千、我國人の設立せる學校病院あり

事中なり、皆我國人の計畫に成る。　開港場と我國、北支那及びウラジボストック(VLADIVOSTOK)との航路は、日本郵船會社及び大阪商船會社これを經營す。　電線は我國及び諸外國へ通ず。

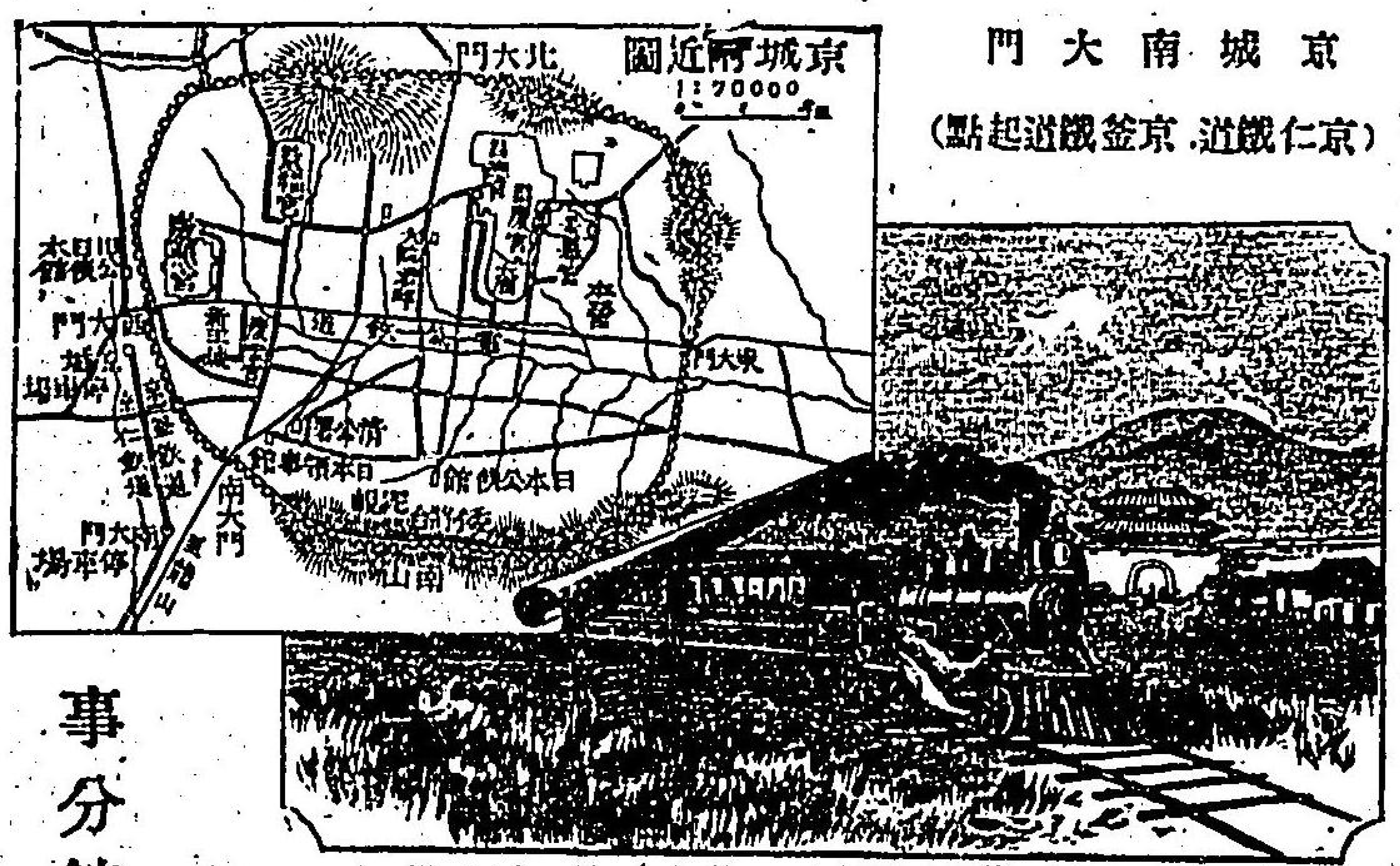
九、地方誌。　行政上、八道に分ちしが、今は十三道に分つ。

京畿道　江原道　黃海道　忠淸北道　忠淸南道
全羅北道　全羅南道　慶尙北道　慶尙南道
咸鏡北道　咸鏡南道　平安北道　平安南道

(中部)(京畿、黃海、江原)。　朝鮮半島の中部に**漢江**流れ、水には汽船を浮べ、沿岸には鐵道を敷き、灌域は平坦肥沃にして、朝鮮の中原をなす、國都**京城**此處にあり、人口二十萬、我が公使館及び領事館あり。　京仁鐵道は、漢江に沿ひて下り、終點なる**仁川**・(INCHYEN)(濟物浦)(CHEMULPO)は、京城及び漢江灌域の門口となり、此國第一

北韓 鴨綠江上流の材木義州に集り、支那に輸出す

小西行長の苦戰せし處



京城南大門

（京仁鐵道、京釜鐵道起點）

の開港場なり、我が領事館あり。

〔北部〕(平安、咸鏡) 平安道は、朝鮮の北西部にあり、鴨綠江(YALU)を以て支那(滿洲)に堺す。義州(ICHAU)は江に臨み、滿洲に入る門口にして、支那と貿易す。 大同江は、大河にして、灌域は平坦肥沃なり、其の市場なる平壤(PING-YANG)は、此國第二の都會にして、舊都なり、豐太閤征韓の役及び日淸戰役の際の有名なる戰場なり、我が領事分館あり、江口の鎭南浦(CHINNAMPO)は、平壤の門口をなし、開港場となり、我が領事館あり。

元山居留日本人二千

南韓 成歡、牙山 豐島沖 木浦居留日本人一千五百

釜山及び附近の居留日本人八千

咸鏡道は、此國の北東部にあり、圖們江(TUMEN)を以てシベリア及び滿洲に堺す。東側は大灣を抱き、其の內に元山(WONSAN)あり、日本海岸第一の良港にして、開港場となり、我が領事館あり。 其の北東、城津(SONGCHIN)は、開港場にして、我が領事分館あり。

〔南部〕(忠淸、全羅、慶尙)。 三南地方と呼び、氣候溫暖なれば、農產多し。 忠淸北道の西は、黃海に面し、日淸役の戰場多し。 木浦(MOKPO)は、朝鮮唯一の不凍港にして、開港場となり、我が領事館あり。 其の北に錦江流れ、江口の群山(KUNSAN)(全羅道)は、開港場となり、我が領事分館あり。 馬山(MASAN)は、朝鮮海峽の要地を占め、開港場となり、我が領事館あり。 釜山(FUSAN)は、我國に最も近き開港場にして、我が居留民多く、日本市街をなし、我が領事館あり。 濟州島(QUELPART)は、大島にして、漁利多ければ、我が漁民多く出漁せり。

第二節　支那 (CHINA)

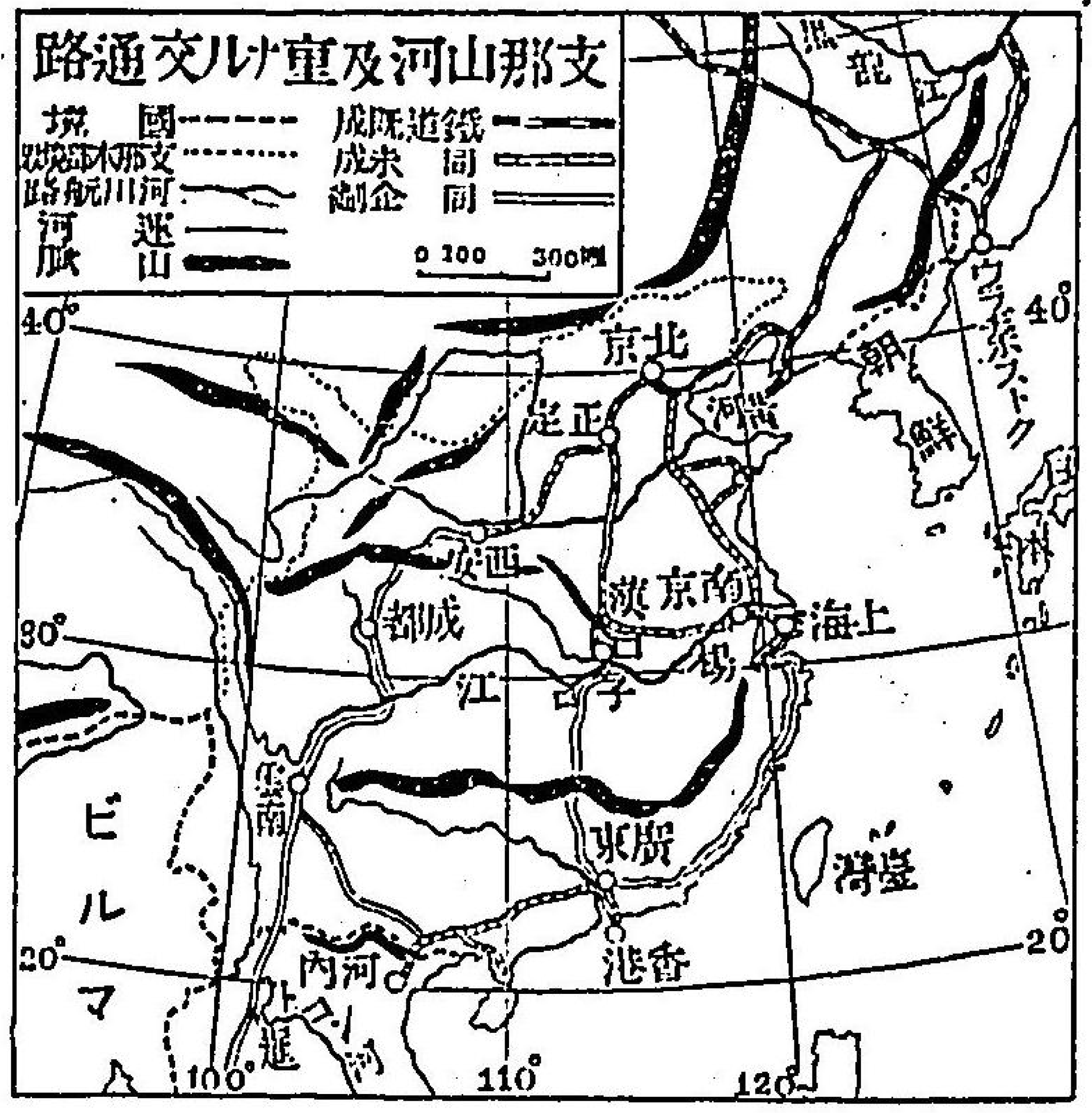
面積七十萬方里　人口四億三千萬　一方里人口

每一點百人

一、位置。 **朝鮮**(KOREA)に次ぎて我國に最も近き外國を**支那**となす。支那は、自國人は**清國**と稱ふ。アジア洲の東部及び中部の殆んど全部を占め、我國に二十六倍する大國なり。

東は朝鮮に隣り、黃海、東海及び支那海を隔てゝ日本及びフィリピン(PHILIPPINE)諸島(アメリカ合衆國領)に面し、北と西とはロシア領に包まれ、南はインド支那(INDO-CHINA)(大半はフランス領及びイギリス領)及びインド(INDIA)(イギリス領)に界し、強國の間にあり。

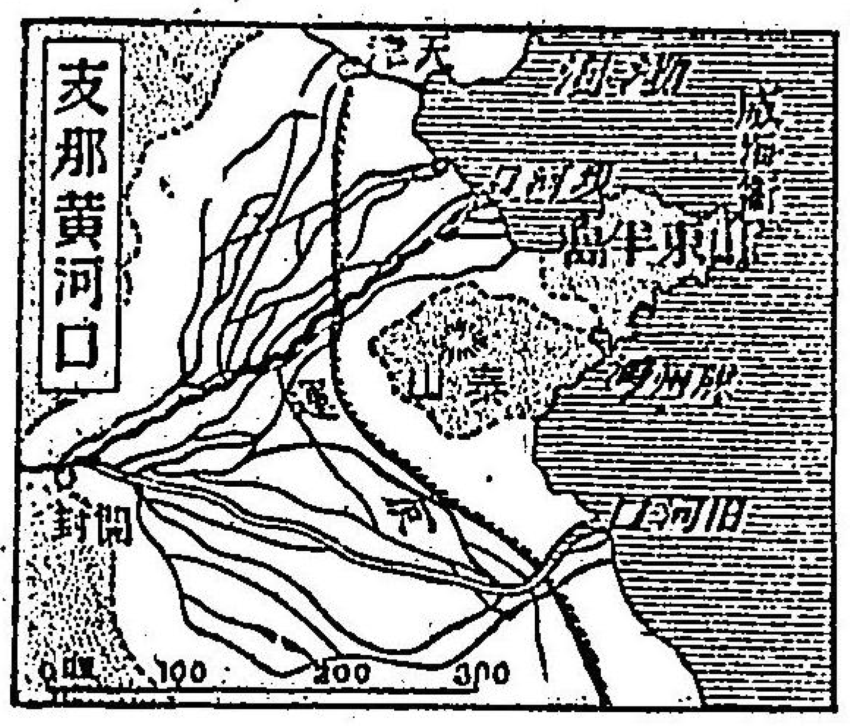
二、地勢。 **海岸**。 **海岸**は東方の一面のみ海に臨み、出入少ければ、**海岸線**は面積に比ぶれば短し、海味に飢えたる此の國人が我國の水產物を需用するは偶然にあらず。國の中央にある**揚子江**の河口以北には、**遼東**(LIOTUNG)**半島**及び**山東**(SHANTUNG)**半島**の突出して**渤海灣**を抱くの外には、海岸の出入殊に少しと雖も、揚子江の河口以南は、支那海に面し、島嶼に富み、出入多し。港灣の良好なるものは、大概ヨーロッパ各國の占領する所となれり。



地勢。 西は『世界の屋梁』たるパミル(PAMIR)高原より**崑崙**(KUENLUN)**山系**起り、崑崙山系と南境なるヒマラヤ(HIMALAYA)山系との間に**西藏**(TIBET)**高原**を作り、黃河、揚子江などの大河は、西藏高原より發して東流し、是等の大河の中流以下には廣大なる平原を開展すれば、地

勢は西部に高くして、東部に低し。 かくて支那の住民は、西部より東漸して其の大平原に開化を起し、其の開化は東漸して、遂に日本に入りたるは地勢の然らしむる所とす。

黄河(HOANG-HO)は單に**河**と稱へ、**揚子江**(YANG-TZ-KIANG)は單に**江**と稱へ、又長江とも呼び、支那に於ける江河の代表となす。



黄河は、大平原の間を流れ、黄泥を含むより此の名あり、水害甚だし。

揚子江は、中流以下に大汽船を通じ、開港場多く、灌域は氣候溫和、土地肥沃、物產多く、都市多く、實に支那の動脈をなせり。

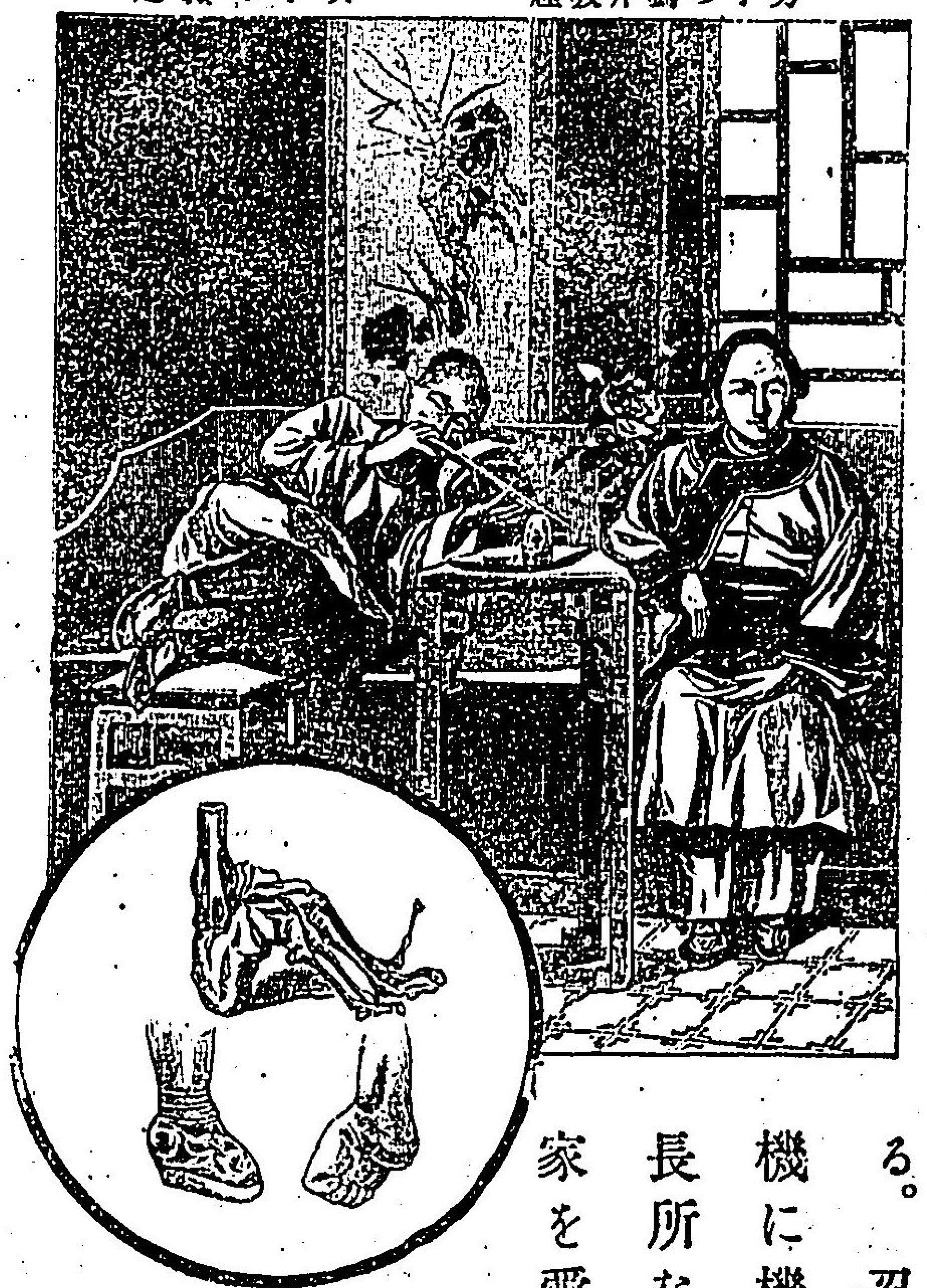
珠江(SI-KIANG)は、黄河、揚子江に次げる大河にして、舟運の便多し。

北嶺山脈(PELIN)の北には黄河、西より東に流れ、**南嶺山脈**(NANLIN)の南には、珠江、西より東に流れ、北嶺と南嶺との間には、揚子江、西より東に流るゝより、地勢は**黄河灌域**(北部)**揚子江灌域**(中部)及び**珠江灌域**(南部)の三大部に區分せらる。 かくて三大部は、各、風土を異にすれば、人文をも異にせり。 されば支那の歷史は、要するに南人將た中部人と北人との競爭の記錄なり。

三、氣候。 北部の**氣候**は、大陸性にして、河海は冬期氷結す、中部は、溫和にして、南部は暖熱なれども、沿岸は夏秋の際、大風襲來す。 蒙古及び西藏は、寒氣強く、雨極めて少し。

四、住民。 **人口**凡そ四億、世界人口の殆んど四分の一を占む。 **住民**は、六個の種族に區分すと雖も、悉く蒙古人種に屬す。 其の內、漢族最も多く、重もに支那本部に住み、人口稠密なるを以て、世界至る所に出稼し、忍耐と勤儉とを以て知ら

男子の鴉片吸烟　　女子の纒足



る。 忍耐、勤儉と商機に機敏なるとは、長所なりと雖も、國家を愛する感念に乏しきは、此の國民の大患なり。 人民は亦固く舊弊を守り、鴉片の吸烟と女子の纒足との二大弊は專ら行はる。 辮髮と滿洲服とは、清朝より始まれり。

五、産業。 北部は、土地廣く、氣候寒冷なれば、多く麥、大豆及び高粱を産し、牧畜盛んなり。 中部は、風土溫和なれば、米の産多く、養蠶盛んなり。 南部は、暖熱なれば、米産殊に多し。豚は、人民の缺くべからざる食料なれば、至る所に養はる。

鑛物には、鐵、石炭などに甚だ富めども、人民多く採掘せず。

中部は氣候中和、風景優美なれば、人民は緻巧にして、**美術工藝品**は、多く此の地方より出で、絹織及び製陶業盛んなり。

重もなる**輸出品**は、生糸及び絹類、茶、綿、大豆及び大豆油糟にして、**輸入品**は綿織糸、鴉片、西洋小間物、水産物などなり。 されば我國は、大豆及び大豆油糟、綿を此國より輸入し、綿織糸、水産物、マッチを此國に輸出し、彼我の貿易益盛大となれり。

六、宗教。教育。 重もに**儒教**、**道教**及び**佛教**行はる。 蒙古及び西藏にては**喇嘛教**行はれ、西北部には**回教**行はる。

喇嘛教は佛教の變派なり

內閣大臣は必ず滿洲人漢人を併せ用ゆ

滿洲三省を東三省と稱ふ

直隸、四川の二省には其省專任の總督を置くを以て、巡撫を置かず

教育は、儒教の主旨を教へ、學校は多く官吏を養成するを目的となす。文學修飾及び浮華の辭を悦び、實用の學に乏しく、殊に科學志想を缺き、又公德に乏しきは、此國の大患なり。

七、政治。 **政體**は、君主專制なり。 中央政府には、內閣あり、內閣の次に吏、戶、禮、兵、刑、工の六部あり、內閣は六部を統ぶる所なれども、政治の實權は辨理軍機處にあり。 地方は、支那本部十八省、滿洲三省及び新疆省との二十二省に分ち、滿洲三省を除きては、一省或は數省に總督を置き、又多くは各省に巡撫を置く。 滿洲には、各省に將軍を置けり。

兵備。 **陸軍**に八旗、綠旗及び勇兵の三種あり、八旗及び綠旗より選拔せる練軍あり、兵數は平時三十萬、戰時一百萬と號せども、新式の訓練を經たる練軍の外は云ふに足らず。

海軍は目下再興中なり

黃河は汽船を通せず、且つ舟便殊に少し

東清鐵道はロシアの經營に係る

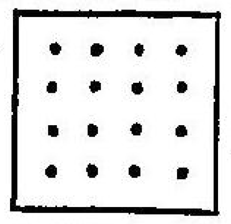
海軍は、日清の戰役に精英なる北洋艦隊全滅したれば、其の他に南洋、福建、廣東の三艦隊あれども、云ふに足らず。

八、交通。 北清(北部)には、大平原連なるを以て、多く馬背に依り、南清(中部、南部)は、楊子江、珠江の如き可航大河あり、運河も多きを以て、多く船に依り、『南船北馬』の語あり。 楊子江には、上海より漢口を經て、宜昌に至るまで、大汽船を通じ、大阪商船會社は、此の航路を營業せり。 其の他の我が汽船會社にして、或は運河、或は湖水を通航して小汽船の航路を營業するものあり。 沿岸諸港の航行には、北清は、日本郵船會社多く經營し、南清は大阪商船會社多く從事せり。

鐵道。 近時大に發達し、保定、北京より天津を經て、山海關に至る線は、東清鐵道に接續し、東清鐵道は、シベリア鐵道に

面積二十六萬方里
人口四億

一方里人口



每一點百人

連絡す。外國人の經營に係る鐵道は、着手中のもの多し。

電信。 國内の都會を連結せるのみならず、東は朝鮮線に連絡し、北はシベリア線に連絡してヨーロッパに通ず。又海底電線に依り、我が長崎、臺灣及びインド支那に通ず。

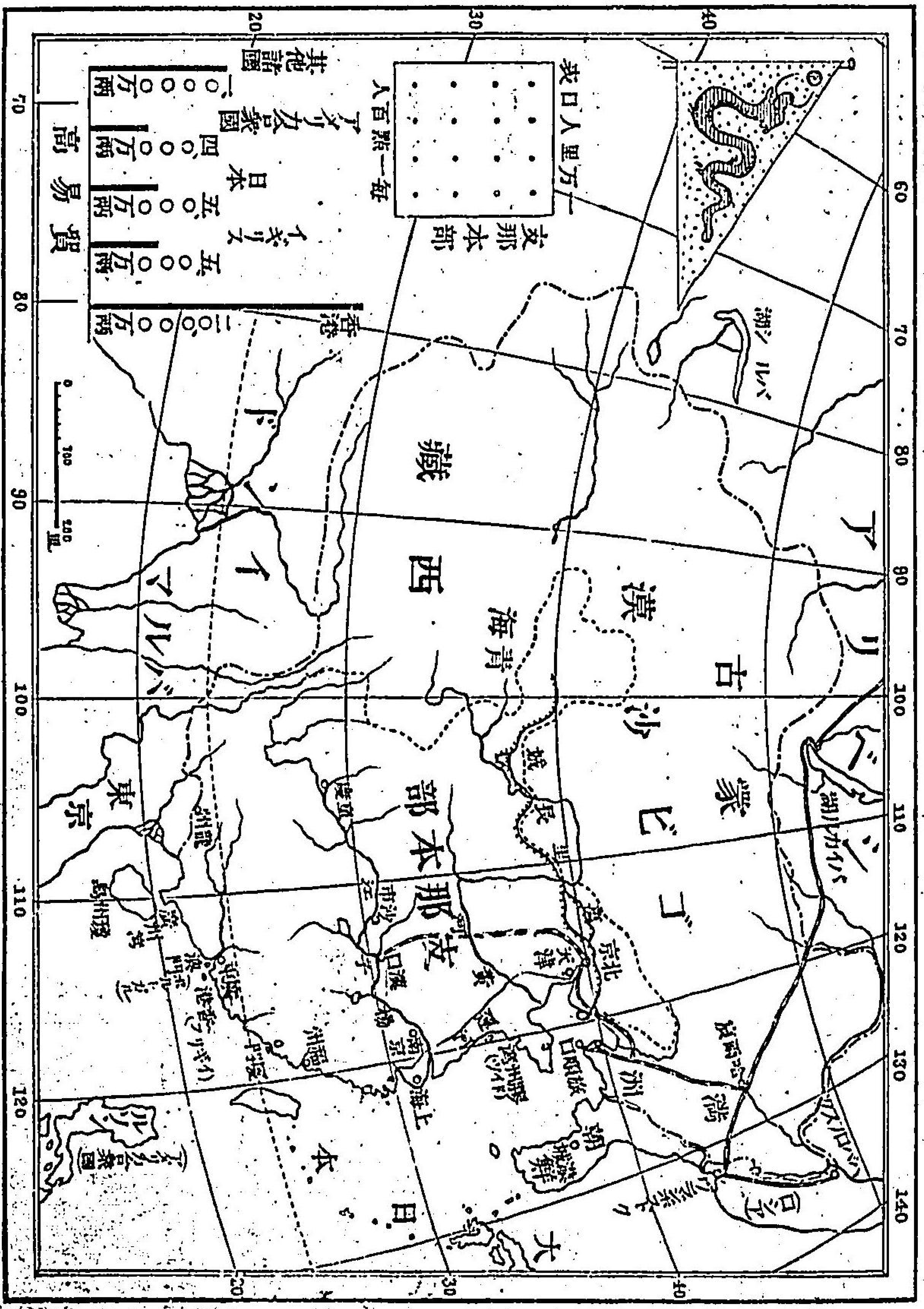
九、地方誌。 全國を支那本部、滿洲、蒙古、新疆、青海及び西藏の六部に大別す。

支那本部。 CHINA PROPER 支那の東南部に位し、二面は海に臨み、内地には數多の大河流れ、氣候溫和、地味肥沃、物産多く、交通も亦便利なれば、支那の最も重要なる部分となす。

北部　直隸 CHILI　山東 SHANTUNG　山西 SHANSI　河南 HONAN　陝西 SHENSI　甘肅 KANSU

中部　江蘇 KIANGSU　浙江 CHEHKIANG　安徽 NGANHWEI　江西 KIANGSI　湖北 HUPEH　湖南 HUNAN

四川 SZECHWAN　貴州 KWEICHAU



支那本部

北京居留日本人三百

白河は冬期は河水結して船を通せざるは思ふべし天津居留日本人千五百

南部　福建 FUKIEN　廣東 KWANGTUNG　廣西 KWANGSI　雲南 YUNNAN

〔北部〕　大概、黄河の灌域に屬す。

山東半島と金州半島とは、相擁して渤海を抱き、渤海の西岸には、北清の大野連れり。　農業、牧畜盛んなり、國都北京 PEKING は、此の大野の略ぼ中央にありて、人口百五十萬、我が公使館あり、宮殿は壯麗なれども、市街は不潔なり、堅固なる城壁を以て圍めども、渤海灣の北扉はロシアに占有せられ、南扉はイギリスに占有せられたれば、國都たるの要害を大に失へり。

北京の傍を流るゝ白河 PEI-HO の口に近く天津 TIENTSIN あり、北京の門口をなし、北清貿易の中心となり、我が總領事館あり。　白河の口は、北京に入る咽喉なれば、堅固なる砲臺を設く、義和團の役、我兵が連合軍の主力となりて勇戰せし所なり。　天津の北、

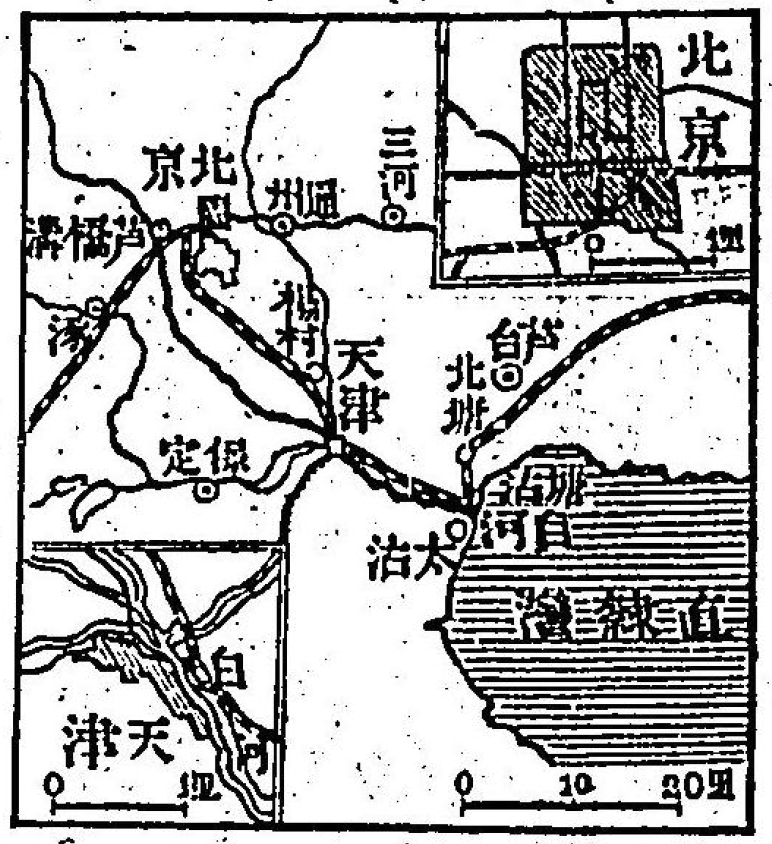
萬里長城、長サ八百里

咸陽に有名なる阿房宮の古蹟あり

上海居留日本人二千

廣大なる開平炭坑 HAIPING あり。　炭坑の西、山海關 SHAN-HAI-KUANG あり、萬里長城は此所より西に連なる、實に世界の最大建築物たり。

山東半島の北岸、即ち渤海灣に臨みて芝罘 CHIFU あり、山東半島は、多く豆類を産すれば、此港よりこれを輸出す、我が領事館あり。



河南府 HO-NAN は、古の洛陽なれば、名勝古蹟多く、市街も繁榮なり。

西安府 SIGNAN は、古の長安なれば、名勝古蹟多く、市街も繁榮にして、人口一百萬、陝西省の首府たり、渭水を隔てゝ咸陽あり。

〔中部〕　大概、楊子江の灌域に屬す。

楊子江の灌域は、支那全國の動脈をなすを以て、江に沿ひ開港場多し。　江口に近き上海 SHANGHAI は、灌域の大門口にして、灌域の

杭州府は大運河の盡くる所にあり

主產物たる茶及び生糸を輸出し、外國貿易の中心となる。日本居留民多く、我が總領事館あり。　上海の西、**蘇州**(SU-CHAU)は、大運河に臨み、絹織物を以て聞え、開港場となり、我が領事館あり。蘇州の南、杭州灣に臨みて、**杭州府**(HANG-CHAU)あり、山水の景に富み蠶糸及び絹織物の產出多く、開港場となり、我が領事館あり。　杭州の南東、**寧波**(NING-PO)あり、寧波の南西、**溫州**(WEN-CHAU)あり、共に開港場なり、寧波は我が遣唐使の上陸場、溫州は溫州蜜柑の本場なり。　揚子江を溯れば、南岸に**江寧府**あり、舊都にして、**南京**(NANKING)と通稱し、古蹟多く、風景優美なれば、風雅の中心と稱へられ、南京燒、南京繻子、筆墨の產多く、開港場となり、我が領事分館あり。　更に揚子江を溯れば、**鄱陽湖**(PO-YANG)の江に合する所に**九江**(KIU-KIANG)あり、陶器の產地なれば、多くこれを輸出す。　更に溯れば、北岸に**漢口**、南岸に**武昌**あり。　**漢口**(HAN-KAU)は茶を輸出し、支那內陸貿易の中心となり、我が領事館あり、軍艦は此所まで溯り得。　**武昌**(WU-CHING)は開市場にして、近傍に赤壁の**名勝**あり。　漢口の東、**大冶鐵山**は、有名なる鐵山にして、我が製鐵所に其の鑛を送り來る。

〔南部〕　其の半は珠江(廣東河)の灌域に屬す。

廣東河の灌域は、絹、茶などを產し、交通便利にして、支那南部の動脈をなす。　是等の物產は河口に近き廣東より輸出すれば、**廣東**(CANTON)は大開港場となり、南清貿易の中心となる。　廣東の南西、**海南島**(HAINAN)の北岸にある**瓊州府**(KIUNG-CHAU)は開港場なり。珠江の水源に近き**雲南府**(YUN-NAN)は、雲南省の首府なり。　雲南省は、支那本部の南西隅に僻在すれども、砂金などの鑛物に富み、南はフランス領の東京(トンキン)に接し、西はイギリス領のバルマに

面積六萬方里
人口八百五十萬

通ずるを以て、兩國は何れも鐵道を雲南の境上まで開通し、進みて線路を省内まで延長せんと盡力し居れり。

廣東省の北東なる**福建省**(FU-KIEN)は、臺灣海峽に臨み、直ちに我が臺灣及び澎湖島に對するを以て、我國の支那に對して不割讓地と約定せしめたる所なり。　此省は、多く茶を產し、開港場なる厦門及び福州よりこれを輸出す。　**厦門**(AMOY)は、臺灣の臺南と相對し、兩地の間に海底電線を通じ、臺灣と交通最も頻繁なるを以て、日本の居留民多く、我が領事館あり。　**福州**(FU-CHAU)は、厦門の北にありて、此省の首府なり、臺灣の基隆と相對し、兩地の間に海底電線を通じ、我が領事館あり。

滿州(MANCHURIA)。　清朝開基の地にして、支那本部より東北に位し、北と東とはロシア領及び朝鮮に界す。　域内を**奉天**(MUKDEN)(盛京)、**吉林**(KIRIN)及び**黑龍江**の三省に分つ、故に『東三省』とも稱ふ。

一方里人口
每一點百人

面積二十三萬方里
人口二百六十萬

氣候は大陸性にして、寒暑共に烈しけれども、土地平坦肥沃なれば、多く高粱及び豆類を產し、森林多く、牧畜に適ひ、且つ鑛物に富み、大河縱橫するを以て、運搬に便なり。　かく有利なる地方なれば、ロシアはシベリア鐵道を分岐して東清鐵道を經營し、滿洲を橫絕してウラヂボストクに達せしめ、更に東清鐵道の中央より支線を南下し、滿洲の首要なる都會**吉林**、**奉天**、**營口**(YING-TSZE)(牛莊)を經て、**旅順口**(PORT ARTHUR)に達せしめ、ロシアの鐵道は丁字形に滿洲を縱橫せり。　遼東半島には、日清戰役の遺蹟多く、其の沖なる**海洋島**(HAI-YANG-TAO)は、黃海の海戰を以て世に鳴る。

蒙古(MONGOLIA)。　支那の北部にあり。　中央に**ゴビ**(GOBI)の沙漠擴がり、其の南を**內蒙古**、其の北を**外蒙古**と云ふ。　氣候は、大陸性にし

一方里人口 毎一點十人

面積七萬方里
人口百二十萬

一方里人口 毎一點十人

新疆省、通稱
伊犁
天山南路(東トルキスタン)
天山北路(ジュンガリア)
面積二萬方里
人口十五萬

一方里人口 毎一點一人

て、寒暑共に烈しく、且つ全域高原性なれば、農産に適はず、人民は遊牧をなし、牛、馬、豚、駱駝を飼ひ、一般に喇嘛教を奉ず。 庫倫(ウルガ URGA)は蒙古の首府なり。 其の北なる賣買城(MAIMATCHIN)は、一水を隔てゝロシア領と界し、ロシアと茶の貿易盛んなり。

新疆省。 **天山**(TIAN-SHAN)は、全域を横斷して、省内を天山南路及び天山北路の二部に分つ。 天山の北麓、**廸化**(烏魯木齊 URUMCHI)は首府なり、其の東より**伊犁河**發し、灌域は肥沃にして、**伊犁**(ILI)は其の中心市場なり、其の東は直ちにロシア領中央アジアに接す。

青海(KOKO-NOR)。 域内の東北に**青海**と稱ふる湖あり、故に此の名あり。 此の地方は、支那の中央を占め、地勢險峻にして、黄河及び揚子江の分水背をなし、物産少く、人口も亦極めて少し。

西藏(TIBET)。 世界の二大山系たるヒマラヤと崑崙との間にあ

面積八萬方里
人口六百五十萬

一方里人口 毎一點一人

西藏は中央高原帶に屬し中央平地帶に入るべきものにあらず、されども支那に屬すれば、便宜上、此處に入る

喇嘛僧

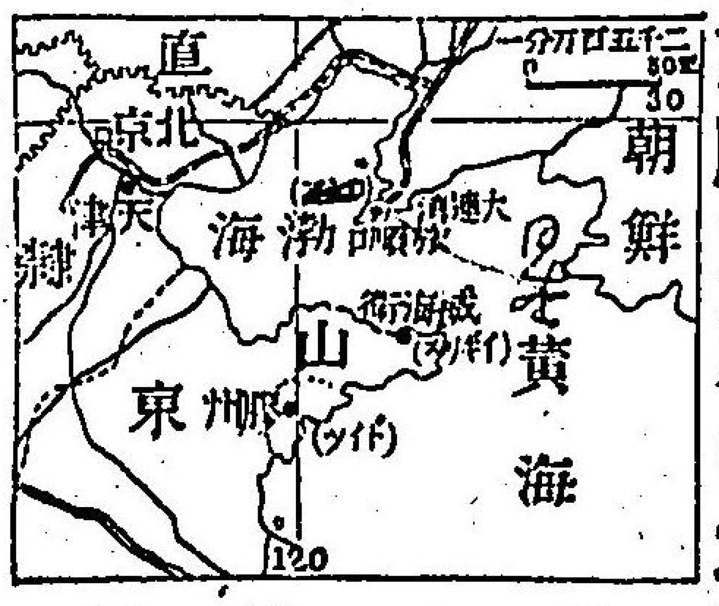
西藏唯一の運搬機關たる犛牛は荷を負ひ乳を採り、肉は食用とし、毛は織物となし、角は什器及び具に製す

れば、平地の高サ一萬三千尺に及び、世界第一の高原をなし、アジア大陸に獨立の一大區分、(**中央高地帶**)を作る。 されば寒暑共に烈しく、農産に適はざれば、牧畜行はれ、犛牛を飼ふ。 首府**拉薩**(LASSA)は、喇嘛教主の住む所なり、固く鎖國して外國人を入れざれば、近年一印度人と二日本人との入りたる外には、外國人にして拉薩に至りたるものなく、地球上に於ける地理最も不明なる部分とす。

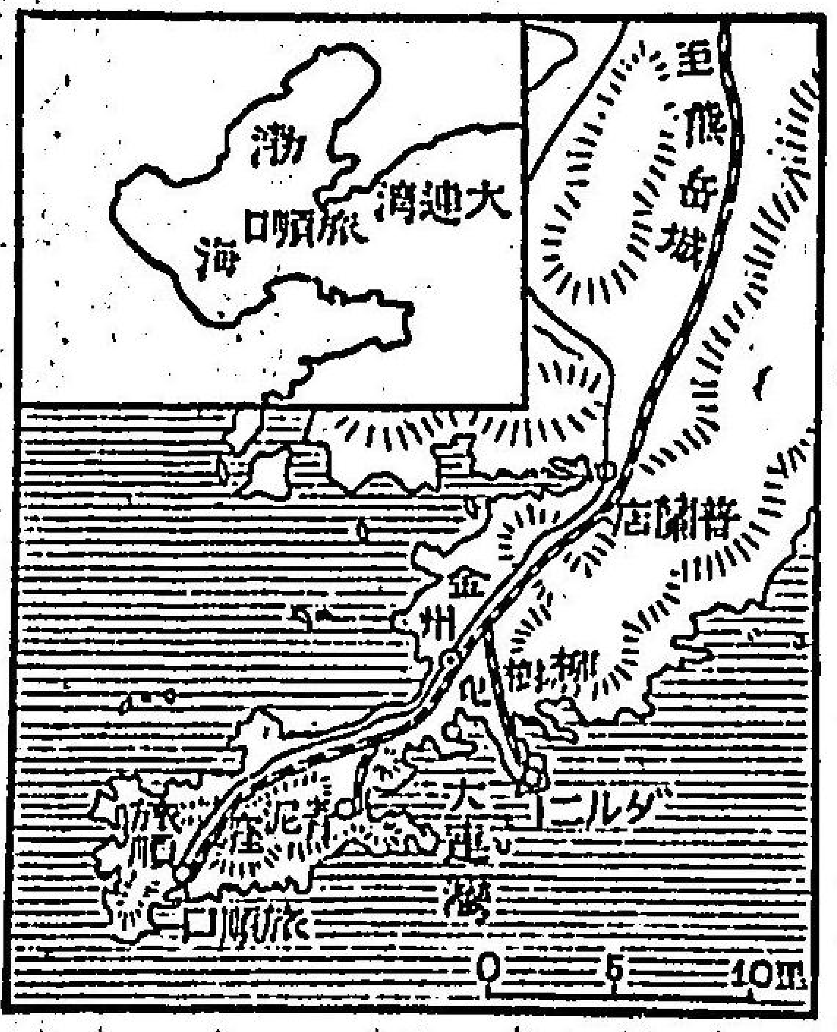
第三節　支那に於ける各國占領地

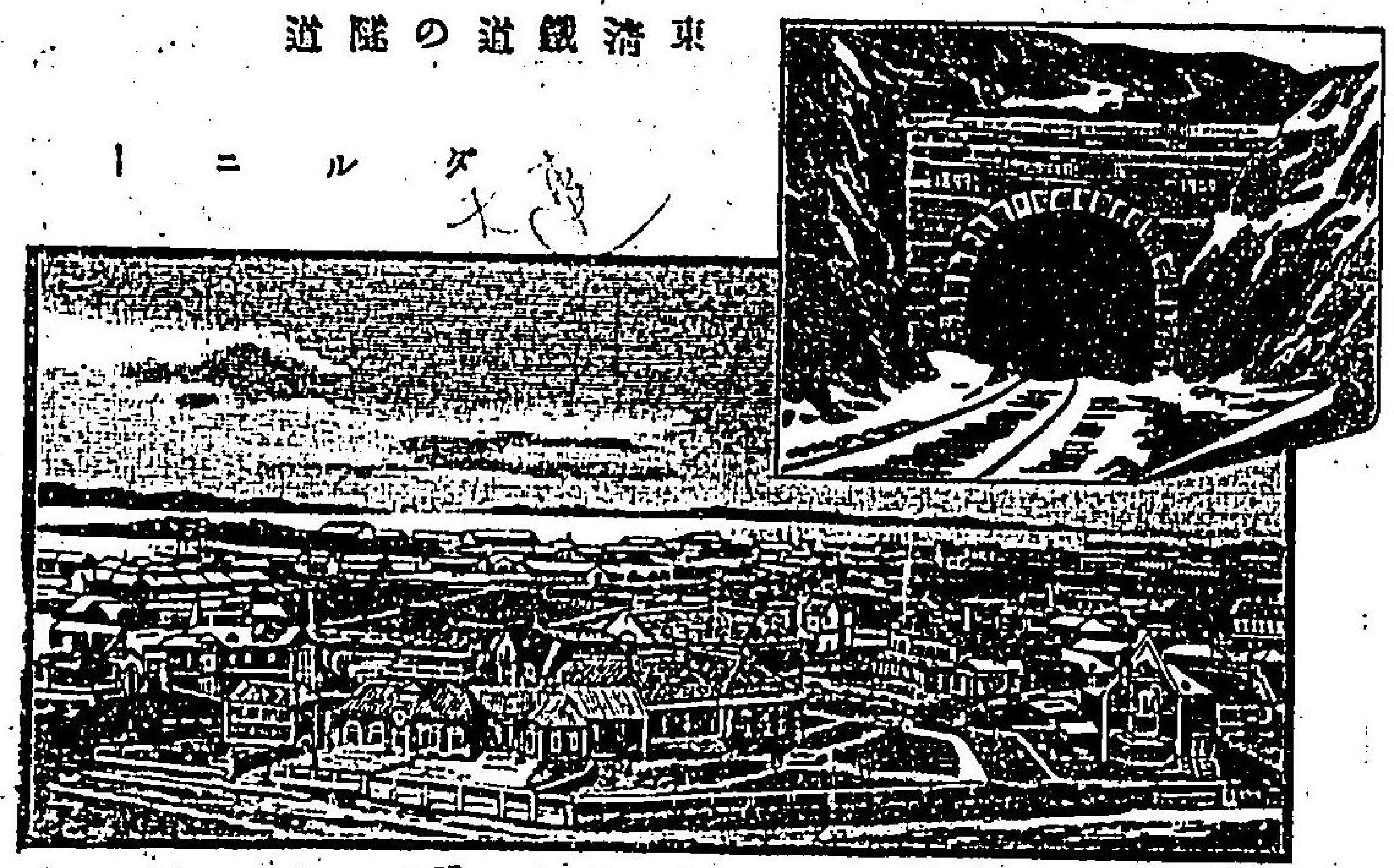
支那は大國なれども、其の要害なる部分は、ヨーロッパ各國の占領する所となれり。

一　旅順口(PORT ARTHUR)　大連灣(TALINWAN)



旅順口及び大連灣は、日清戰役の後、一旦我國の所有となり、後また支那に還附せし遼東半島の南端にありて、支那國都北京の門口たる渤海の右扉を扼す。旅順口に堅固なる砲臺を築きて、太平洋艦隊の根據地となし、





東清鐵道の隧道

ダルニー

大連灣を盛んに經營し、ダルニー(DALNY)なる新市街を起し、且つ灣の大部分を開放せり。シベリア大鐵道と連絡せる東清鐵道は、滿洲の中央より其の支線を南下し、滿洲を縱斷して、直ちに旅順口に達せり。

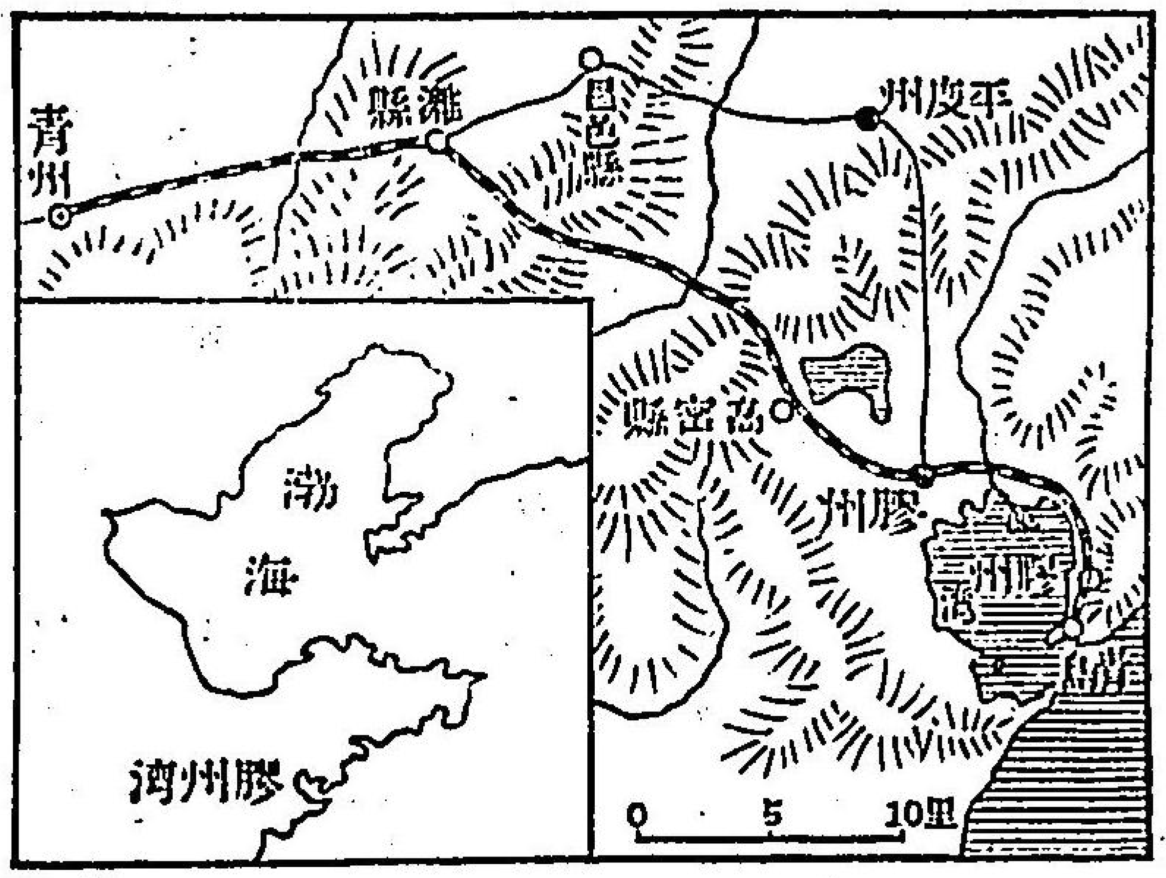
二　威海衞(WEI-HAI-WEI)

威海衞は、渤海の門口の左扉をなし、右扉なる旅順口及び大連灣と相對せり。右扉は、ロシア占有せしを以て、イギリスは左扉を占有せしなり。

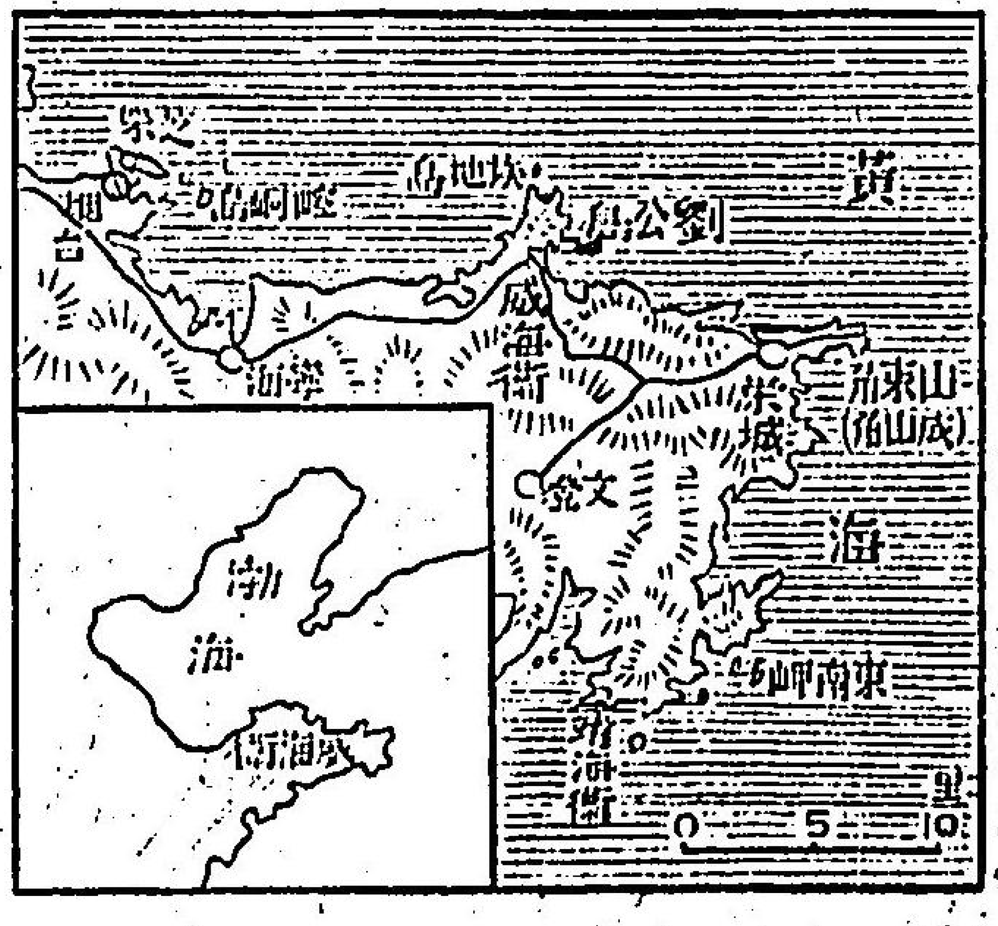
元と支那北洋艦隊の根據地なりしが、日清戰役の際同艦隊

は此處にて全滅せられたり。かくの如き要害の地なれば、イギリスは、其の軍隊を駐屯せしむ。

三　膠州灣(KIAO-CHAU)



膠州灣は、山東半島の南岸にありて、イギリスの占有せる威海衛と腹背相對し、北清に對する要害の地にあり。ドイツは、灣の四近を占有し、軍隊を駐屯し、山東半島を横絶する鐵道に着手中なり。



香港居留日本人六百

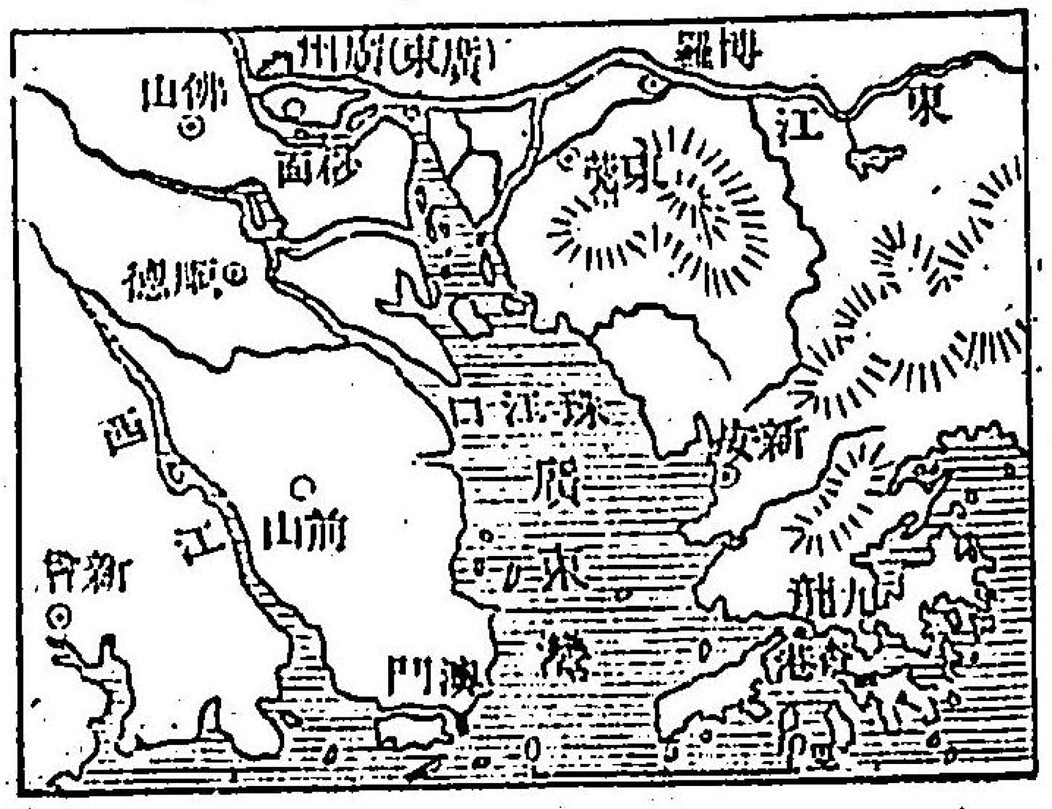
我國にて天川(アマカワ)とも稱へたり

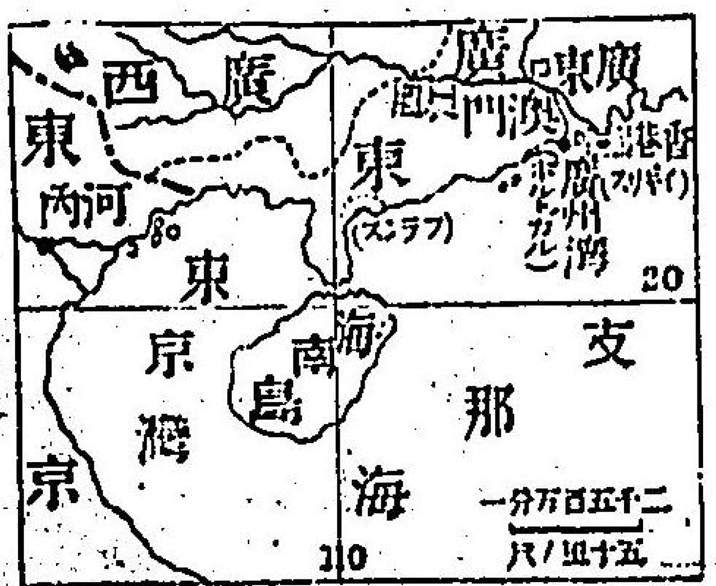
四　香港(HONG KONG)

香港は、珠江の河口の左なる小島になり、**九龍**(KIU-LUNG)と相對して良港を抱き、イギリスの支那艦隊根據地なり、又た東洋第一の貿易港にして、日本郵船會社の航路に當り、我が領事館あり。イギリスは此處に據りて南清地方を控制す。

五　澳門(MACAO)

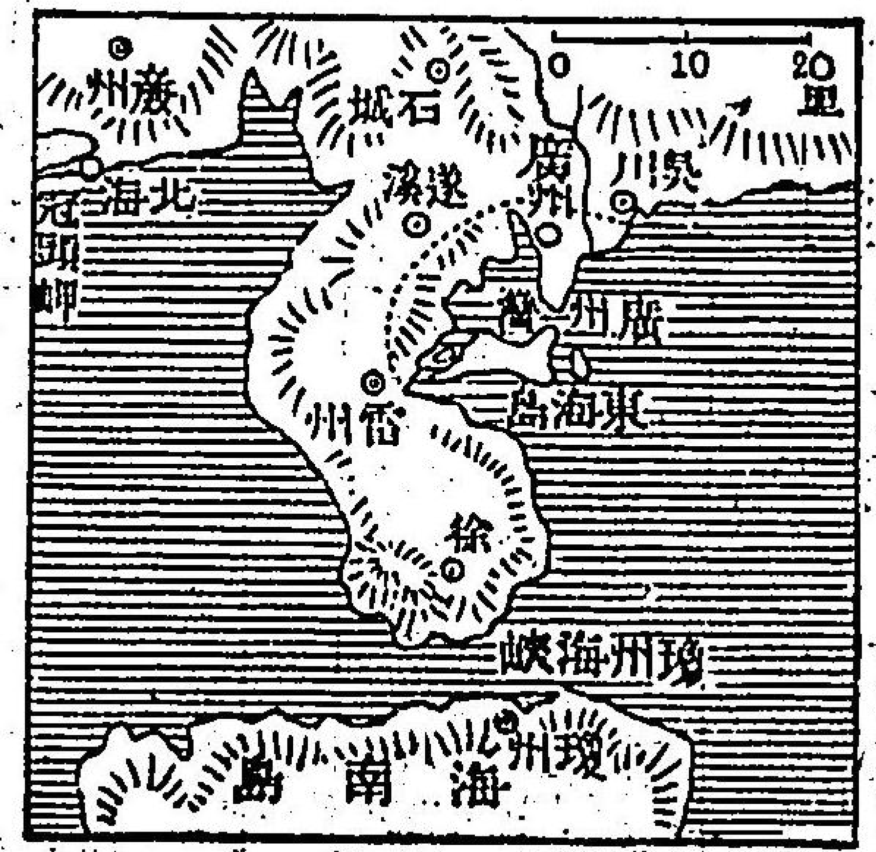
澳門は、珠江の河口の右にありて、香港と相對し、ポルトガルに屬す。阿媽(アマカウ)港と稱へて、舊時我國と盛んに交易せし港なりしが、香港の開港後、是に通商を占有せられ昔日の觀なし。





六　廣州灣（KWANG-CHAU）

廣州灣は、香港及び澳門の南東に位せる雷州半島の東側にあり。フランス領インド支那の防禦上及び南清地方の控制上、甚だ要害なる位置にあるを以て、灣の四近と灣口の二島とは、フランスこれを占有せり。



以上ヨーロッパ各國の**占領地**の多くは、租借の名義を以て支那より借用し居れるものなれども、各國共に競ひて永久の經營を施し、事實上に於て占領地となれり。　又各國は、以上**占領地**の外に、或は探檢隊を派遣し、或は鐵道を敷設し、或は內陸の湖河に汽船を通じ、各般の經營に瞬時も怠らず。

麻栗は軍艦築造の良材

第四節　インド支那（INDO CHINA）

一、境域。　支那とインドとの間にあれば、此の名あり。

二、氣候。物產。　北方を除きては、熱帶にあれば、炎熱にして、雨多く、且つ內部には大河流れ、灌域は平坦肥沃なれば、米產多く、南京米の產所なり。　灌域の四周は山連なり、濕暖なるを以て、森林繁茂し、香料、麻栗（チーク）を出し、象牙及び寶石を產す。

三、住民。　蒙古人種に屬し、人情懶惰なり、佛敎を信ず。

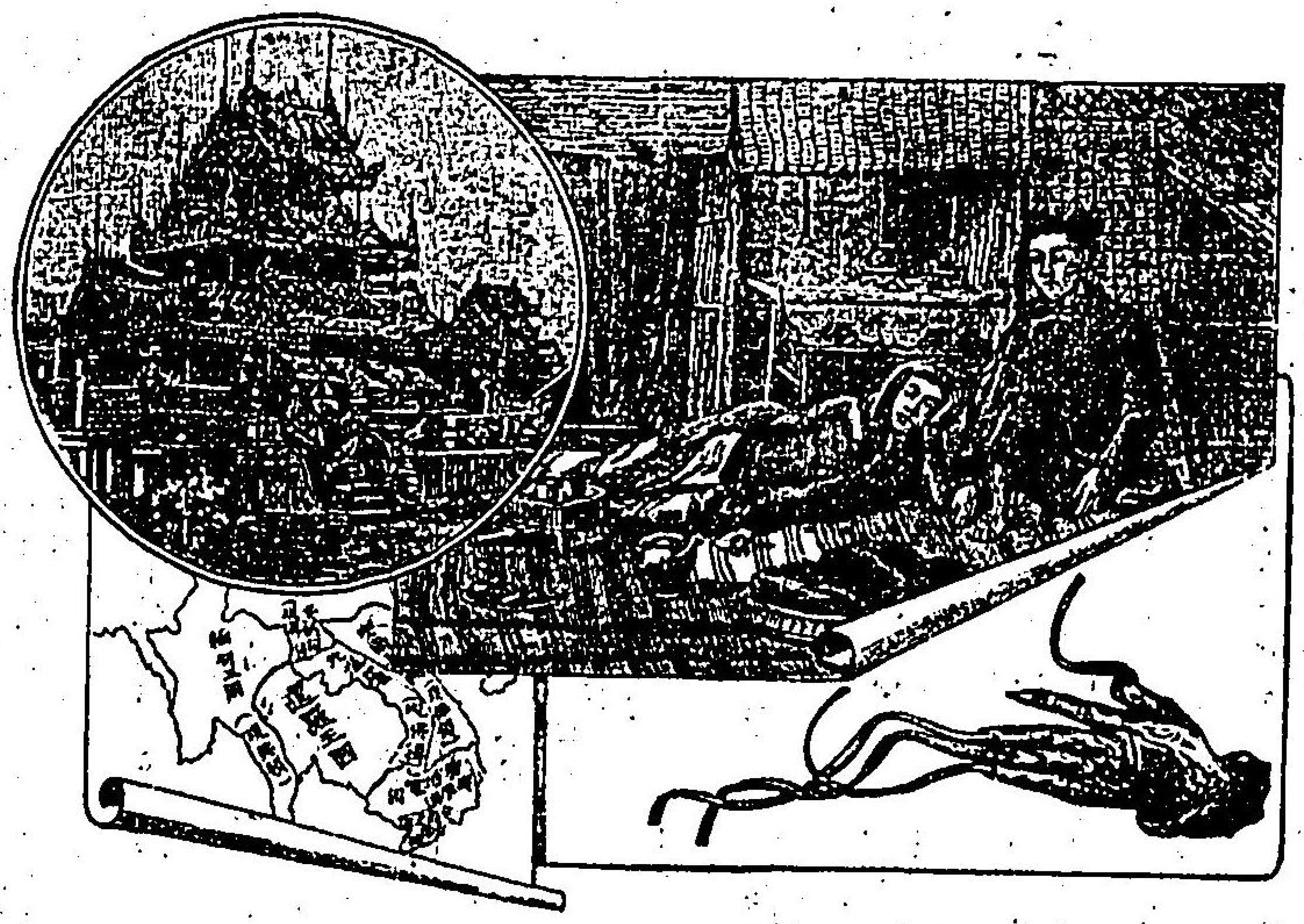
四、地方誌。　インド支那は、（一）**フランス領**、（二）**シャム**（三）**イギリス領**の三部に分つ。

一　フランス領インド支那

インド支那の東部にありて、**東京**（トンキン、TONGKING）、**安南**（アンナン、ANNAM）、**交趾支那**（COCHIN-CHINA）及び**柬蒲寨**（カンボヂア、CAMBODIA）

面積六萬方里
人口千九百萬

一方里人口
毎一點百人



の四部に分かる。**安南、交趾支那**及び**東蒲寨**は、いづれも獨立王國なりしが、フランスに亡ぼされたるものなり。

東京、メコン(MEKONG)の二大河流れ、東京河口に近き**ハノイ**(HANOI)は首府にして、本國の總督駐在す。**ユエ**(HUE)は、安南舊王國の都なり。メコン河口に近き**サイゴン**(SAIGON)は、フランス領第一の港なり。

フランスは、其の領內に大軍を駐在し、頻りに鐵道を敷設し、ハノイにアジア大博覧會を開き、又東は支那の廣西省に接するを以て、廣西の廣州灣を占領し、西は、シャムに界するを以て、シャムの國土を蠶食し、漸次に其の領地を擴張し居れり。

面積四萬方里
人口五百萬

一方里人口
毎一點百人

メナム河を溯り前朝の王都アユチアに至れば日本人が常年の居留地と傳ふる處あり

バルマ
面積四萬方里
人口一千一百萬

二 シャム (SIAM)

インド支那の中央に位し、フランス領とイギリス領との間に介在すれば、兩國の勢力の平均に依りて獨立する王國なり。**メコン**(MEKONG)**河**、東境に流れ、**メナム**(MENAM)**河**、西部に流れ、メナム河口に近き**バンコク**(BANGKOK)は國都なり。我が公使館及び領事館あり。

シャムは、山田長政が壯圖の國にして、日本人の遺跡あり。

三 イギリス領インド支那

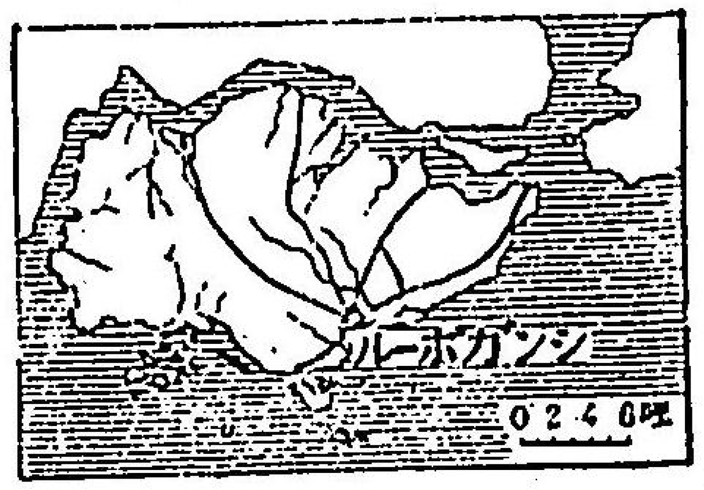
イギリス領は、(一)**バルマ**(BURMA)、(二)**海峽植民地**(STRAITS SETTLEMENTS)に分かる。

(一)バルマは、舊き王國なりしが、イギリスに亡ぼされ、行政上、

一方里人口　每一點百人

シンガポール居留日本人一千

インドの一部となれり。**イラワヂ**(IRAWADI)河の灌域は、米產多く、河口に近き**ラングン港**(RANGUUN)より輸出す、ラングン米これなり。　河を溯れば、バルマ舊王都なりし**マンダレ**(MANDALEY)あり。　鐵道はラングンより北上し、今や支那雲南の境上まで落成し、イギリス人は此の鐵道に依り、支那內陸の物產を開發し、ラングンより輸出する計畫中なれば、ラングンは第二の上海となり、アジア屈指の要港となるべし。



(二)海峽植民地(STRAITS SETTLEMENTS)は、**マライ**(MALAY)半島にあり。　半島の南端に**シンガポール**(SINGAPORE)あり、東洋と西洋とを往來する船は傍なる海峽を通過すれば、交通の要衝となり、日本郵船會社の航路に當り、我領事館あり。其西北、**ピナン**(PENANG)も日本郵船會社の航路に當れり。

第三章　北部低地帶

第一節　アジアロシア (ASIATIC RUSSIA)

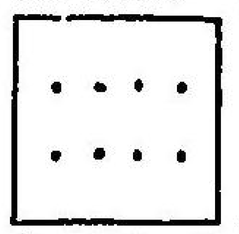
一、境域。　ロシア帝國は、西にはヨーロッパの列强あれども、東には障害するもの少ければ、其の勢力は年々東方に擴がり、我が北海道の北にまで來り、アジア北部の全部を包有し、**面積**一百萬方里餘、アジア全部の四割を占むるに至れり。

一、シベリア二中央アジア、三カフカズの三部に分つ。

一　シベリア (SIBERIA)

一、位置。　シベリアは、日本海を隔て丶裏日本に對し、支那及び朝鮮の北に連なり、東はベーリング(BEHRING)海、オホーツク(OHOTSK)海及び日本海に面し、北は一帶に北氷洋に面す。

面積八十萬方里 人口六百二十萬 一方里人口



毎一點一人

二、面積。人口。　面積八十萬方里、人口六百萬あり。　かく面積は我國に我十倍すれども、人口は八分の一に過ぎざれば、土地廣く、人口疎にして、將來開發するの餘地甚だ多し。

三、地勢。　海岸には、我が千島の北までも突出する**カムチャツカ**(KAMTCHATKA)**半島**などもありて、屈曲少なきにあらざれども近海の多くは氷結するを以て、航海の利に乏し。

地勢を**高原地**と**平原地**との二大部に分つ、即ち南東部は、**アルタイ山系**より山脈四出して高原地を作り、北西部は**オブ**(OF)、**イェニセイ**(YENISEI)及び**レナ**(LENA)の三大河流れて平原地を作れり。　平原地は茫々として、三部に分ち、北緯六十五度以北は、**凍土帶**と稱へ、地下まで氷結し、これより南五十五度までは、**森林帶**と稱へ、松樺などの森林連なり、其の以南は**曠野帶**、即ちステップ(STEPPES)スと稱へ、樹木なき茫々たる平原なれども、農産物に富む。

河には**オブ、イェニセイ、レナ**及び**黑龍江**(AMUR)あり、湖には世界淡水湖の最も深き**バイカル**(BAIKAL)ありて、いづれも汽船を通じ、水利大なれども、冬期氷結するの不利あり。

四、氣候。　北、北氷洋よりは、寒風遮斷なく吹き、南、中央アジア高原は、洋海性感化を遮斷すれば、氣候寒冷にして、水銀の氷結する處あり。　されども**大陸性**の氣候なれば、夏に至れば熱帶より炎熱なる處あり。　南部の曠野帶は温和なり。

五、産物。　**森林帶**には、松、樺などの材木多く、又シベリアの富源と稱ふる黑貂、黑狐などの毛皮を産す。　**曠原帶**は、平坦肥沃にして、氣候温和なれば、穀物を産す。　山岳地方には、多く金、銀などを産し、白金は西境のウラル山脈に産し、黑鉛は

南部の高地に出で、其の產額世界第一と稱へらる。河湖には、鮭、鱒夥しく、洋海には、鯨、膃肭臍など多く、又カムチャツカ半島の近海は甚だ水產に富み、世界三大漁場の一たり。

六、住民。 住民の五分の四は、白人なるロシア人にして、殘餘の五分の一は蒙古人種なる土人より成る。ロシア政府は、近年此の地方の移住を奬勵し、コサック(KOSAKS)兵を移植し、且つ囚徒を送り、專ら人口の增加を計るを以て、住民は年々に增加す。 土人は、**薩滿敎**とて妖魔の術を行ふ一種の宗旨を信ず。

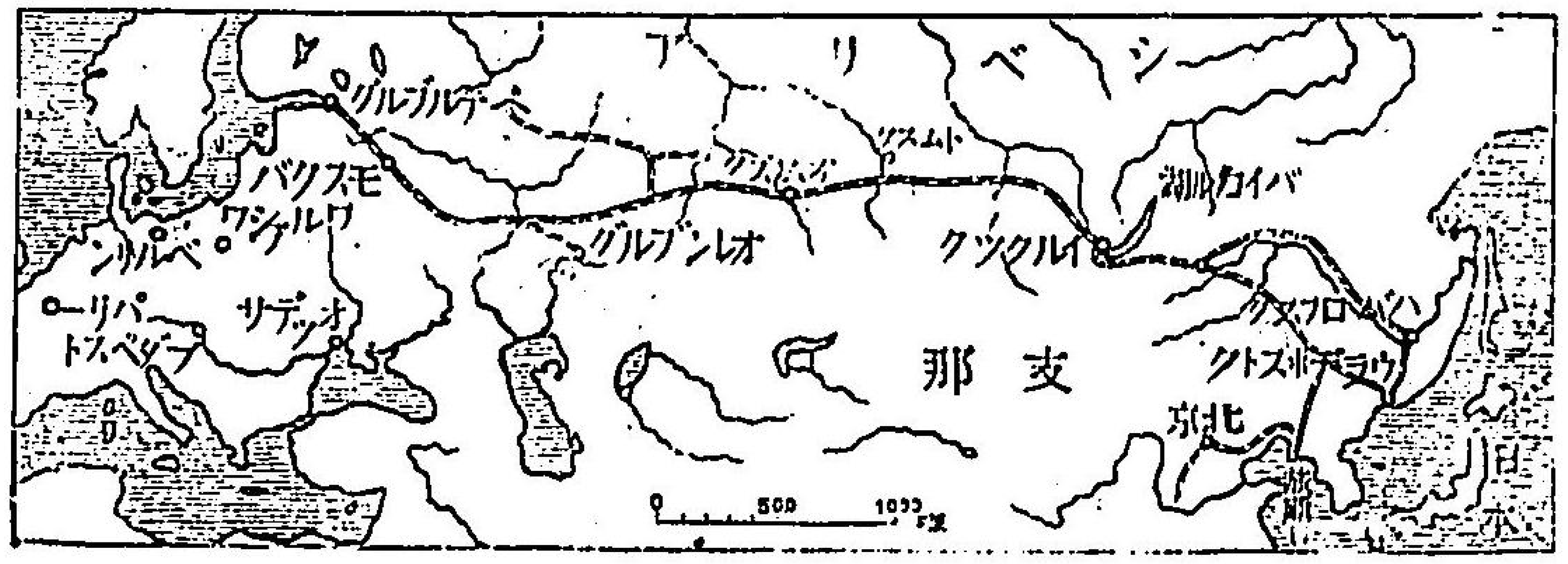
七、政治。 行政上、(一)**黑龍江**、(二)**東シベリア**、(三)**西シベリア**の三省に分ち、西シベリアは本國內務省の直轄にして、他の二省は總督の管治する所なり、又全部を八州に區劃し、各州に知事を置く。コサック兵は屯田の制にして、所々に永住す。

海軍には、東洋艦隊及び義勇艦隊あり、東洋艦隊はウラジボストクに鎭守府を置く。

八、交通。 **航海**には義勇艦隊これに當り、其の外、日本郵船會社などこれに從事す。

シベリア鐵道は全長五千哩、西はロシアのボルガ(VOLGA)河畔より起り、ウラル山脈を越えてアジア・ロシアに入り、オムスク(OMSK)、イルクツク(IRKUTSK)などの都會を經、シベリア南部の沃野を横斷して、東岸のウラジボストクに達す。

今や線路は大概落成し、ウラジボストクよりは、支線なる東清鐵道に依りて幹線と連絡し、バイカル湖は汽船にて連絡するを以



シベリア鐵道

ウラジボストク居留日本人三千五百

て、日本と西部ヨーロッパとは、直接の内陸交通を開通するに至れり。此の大鐵道は、世界の交通、貿易、軍事に大なる影響を及ぼすべく、日本及び支那は特に影響を蒙ふるものとす。

電信は鐵道に沿ひてシベリアを横斷し、西は本國と通じ、東はウラジボストクより海底電線に依り我が長崎に達す。

九、地方誌。

黒龍江省(AMUR)。　東南部の**沿海州**及び**黒龍江州**より成る。南東岸の**ウラジボストク**(VLADIVOSTOK)は、港内安全にして、軍港と開港場とを兼ね、ロシア人の東洋に出づる門口なり、冬は港内氷結すれども、碎氷船に依り出入するを得。我國より穀類、綿布、雜貨などを輸入し、日本居留民多く、我が貿易事務官を置く。ウラジボストクよりシベリア鐵道にてウスリ(USSURI)江に沿ひ北行すれば、江の黒龍江と合流する所に**ハバロフスク**(HABAROVSK)あり、此省の首府にして總督駐在す。其の北、黒龍江口なる**ニコライエフスク**(NIKOLAEVSK)附近には、我が國人の出漁するもの多し。ニコライエフスクと一水を隔てる**カラフト島**(SAKHALIN)は、我國が千島と交換せしものなり、其の沿岸には我が國人の出漁するもの甚だ多く、南岸の**コルサコフ港**(KORSAKOV)に我が領事館あり。

ハバロフスク居留日本人三百

ニコライエフスク附近居留日本人六百

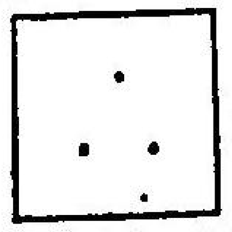
カラフト居留日本人六百

東シベリア省。　バイカル湖に近く**イルクツク**(IRKUTSK)あり、支那に對する貿易及び軍事上の要地にして、又獸皮貿易の中心となり、此省の首府にして、シベリア第一の都會となる。

西シベリア省。　オブ(OB)河上流の沃野地方及び金礦地方の中心に**トムスク**(TOMSK)あり、此省の首府にして、アジアロシアに於ける唯一の大學あり。

面積二十六萬方里
人口八百萬

一方里人口



毎一點十人

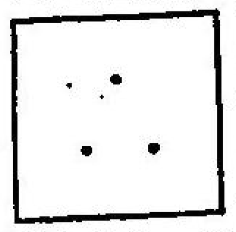
二　中央アジア (CENTRAL-ASIA)

シベリアの南より支那の西に連なる地方を總稱し、其の面積我國に十倍せり。氣候は純然たる大陸性にして、寒暑共に烈しく、地勢は沙漠多く、其の間にアラル(ARAL)湖及び裏海(CASPIAN SEA)の如き大なる鹹湖ありて、土地概して不毛に、人口疎なり。されどもアム(AMU DARIA)、シル(SYR DARIA)などの大河の流るゝ邊は、土地肥沃にして、穀類、果實、綿などを產し、**タシュケント**(TASHKENT)、**サマルカンド**(SAMARKAND)、**ブハラ**(BOKHARA)などの都邑此處にあり。ロシアの勢力を中央アジアに確立せしめたる中央アジア鐵道は、是等の都邑を連絡し、且つ本國政府は移住を奬勵するを以て、地方は近年益〻開發せり。

タシュケントは、南部沃野の中央にありて、商工業盛んに、中央アジア第一の都會となり、本國の總督駐在せり。**サマルカンド**は、豪傑帖木兒(TIMUR)の舊都にして、其の墳墓あり。

面積三萬方里
人口一千萬

一方里人口



毎一點百人

カフカズの南部はアジアに屬し、北部はヨーロッパに屬す

白色人種をカフカズ人種とも稱ふるは故あり

三　カフカズ (CAUCASUS)

裏海と**黑海**(BLACK SEA)との間にあり、**カフカズ山脈**は横絕して地方を南北に分ち、北部は寒氣強くして、物產に乏しく、南部は溫暖にして、雨多く、大河流れ、農耕、牧畜盛んなり、首府**チフリス**(TIFLIS)は、南部の中央にあり。鐵道は此處より裏海岸のバクに至る、**バク**は有名なる石油の產地にして、我國にも多く輸入す。バク石油の開發と中央アジア鐵道の落成とは、相待ちてアジア・ロシアを益〻開發せしめたるものとす。

此地はアジア・ヨーロッパ二洲に跨り、且つカフカズ山脈連なれば、幾多の人種古來より匿れ、多くの人種雜居せり、其の中、カフカズ人は、容貌骨格俊秀にして、白色人種の標本となる。

第四章　南部高原帶

面積二十六萬方里
人口三億

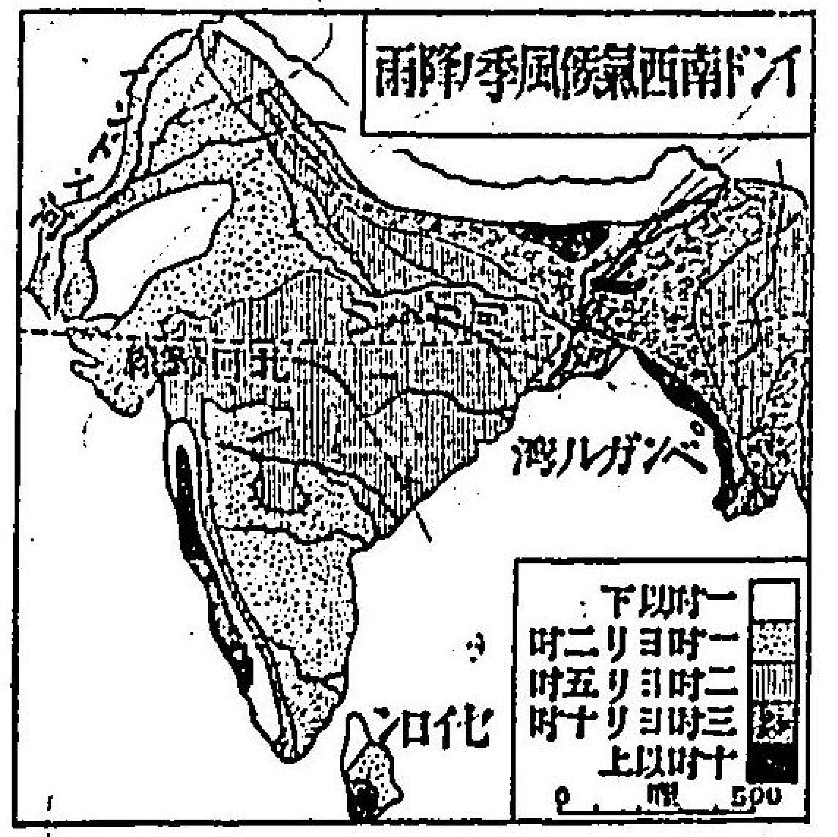
一方里人口
每一點百人

第一節　インド(INDIA)

一、位置。　**インド**は、我國にて天竺と稱へたる地方にして、北にヒマラヤ(HIMALAYA)山系を負ひ、南の方インド洋に突出する大半島なり、其の面積我國に殆ど十倍す。

二、地勢。　(一)**ヒマラヤ山地**、(二)**平原地**、(三)**デカン(DECCAN)高原**の三部より成る。　**ヒマラヤ大山系**は、六百餘里に連なり、最高峯**ガウリサンカル**(GAURISANKAR)(エヴェレスト EVEREST)は、高サ二万九千尺、富士山の二倍餘にして、世界第一の高峯なり。　**平原地**は、**インドス**(INDUS)及び**ガンガ**(GANGES)二大河の灌域より成り、肥沃にして、灌漑の便多し。

三、氣候。產物。　西南季候風(モンスーン)のインド洋より水蒸氣を送るとき**雨季**となり雨季の後、**涼季**來り、次で、**暑季**來り、一年を三季に分つ。　氣候暑く、雨多く、地味肥沃なれば、人民は農業に從事し、米、綿、鴉片、藍、茶、珈琲、甘蔗を產す。　植物繁茂し、絕えず花を開き果實を結び居れば、獸は體格の壯大、將た毛皮の鮮美なる象、獅子、虎、豹の類、鳥は孔雀、鸚鵡の類多し。



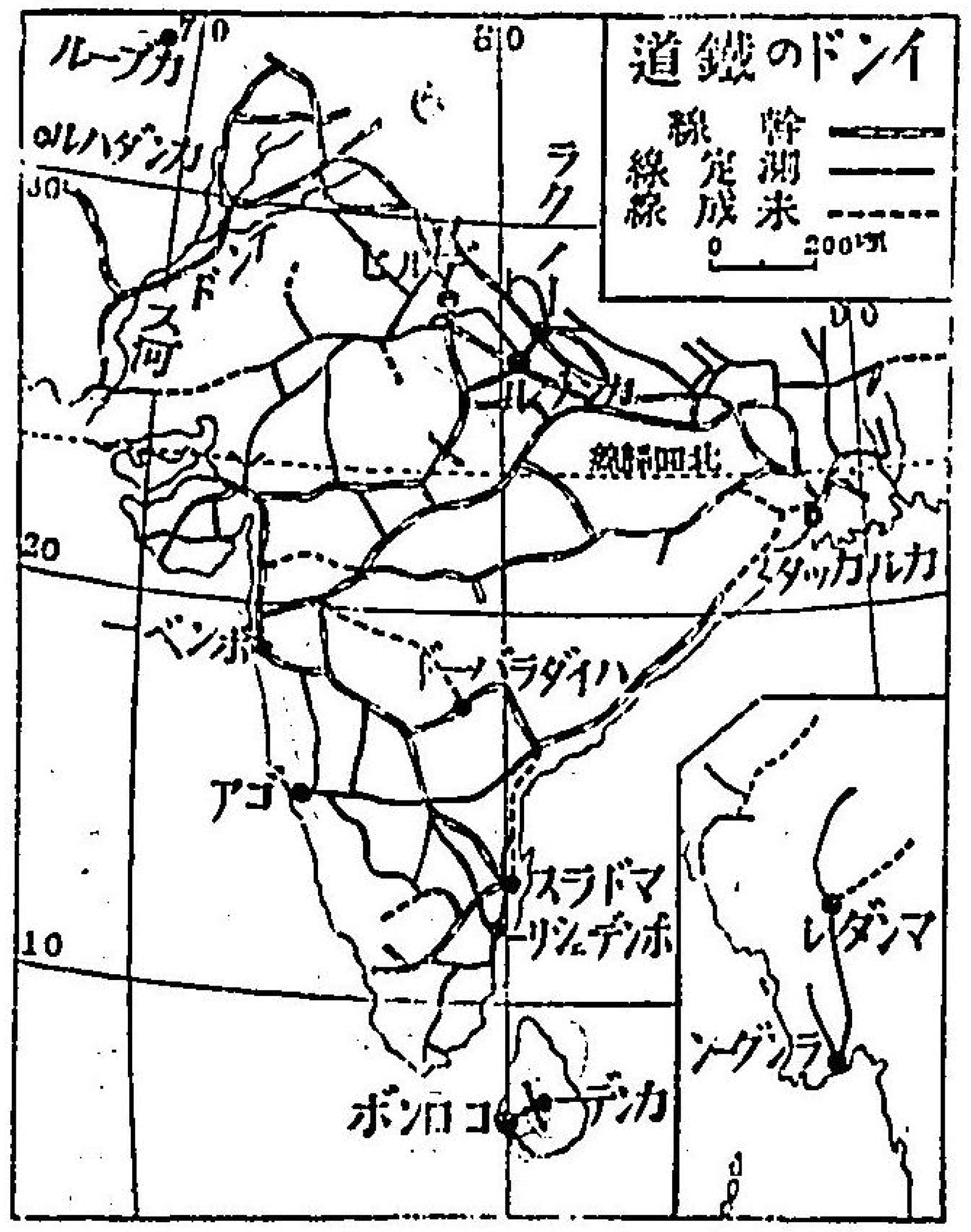
インド風俗

カルカッタ

フランス及びポルトガルに屬する所もあれども、其の面積甚だ小なり

四、政治。住民。　イギリスに屬し、イギリス皇帝は、又**インド**皇帝の號あり、皇帝より大總督を派遣して管轄せしむ。氣候暑く、物産多ければ、**人情**は懶惰卑屈なり。されども、**ネパール**(NEPAL)及び**ブータン**(BHUTAN)は、ヒマラヤの山中にありて、住民勇敢不屈なれば、能く獨立を維持して今日に至れり。

住民は大概カフカズ人種の**ヒンヅー**(HINDU)**族**より成る。其の八割は**バラモン教**を奉じ、一割半は**回教**を信ず、基督教徒も亦增加せり。



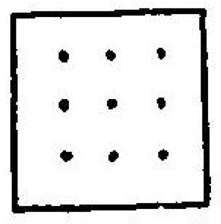
五、交通。　鐵道は四通し、交通便利なり。

六、地方誌。　**ガンガ河**は、ブラマプトラ(BRAHMAPUTRA)河と合して世界第一の大三角洲を作り、平坦肥沃なり、首府**カルカッタ**(CALCUTTA)は此處にありて、大總督駐在す。**ボンベー**(BOMBAY)は西岸にある大港にして、日本郵船會社の航路に當り、我が領事館あり。

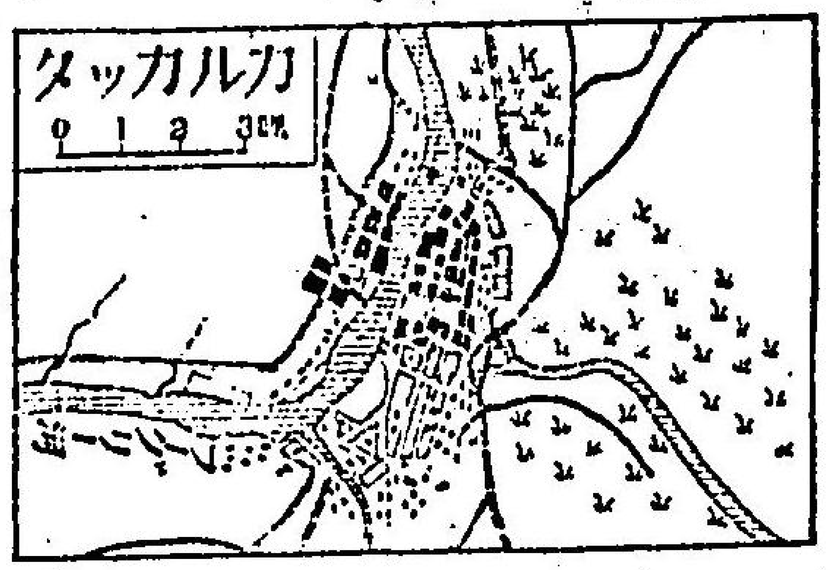
セイロン(CEYLON)は、インド半島の北東端近くにある我が北海道より少しく小なる島なり。イギリスに屬すれども、インドと管轄を異にし、別に總督駐在す。氣候暖かなれば、茶を産す。インド半島より獨立せる島なれば、佛教は此處にのみ殘留し、人民大概これを奉ず。首府**コロンボ**(COLOMBO)は、東西兩洋往來の船の衝路にあるを以て、日本郵船會社の航路に當れり。

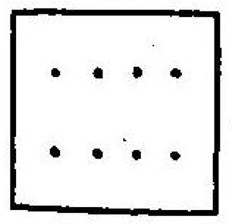
面積四千二百方里
人口三百七十萬

一方里人口



每一點百人



面積十萬方里
人口八百萬
一方里人口

每一點十人

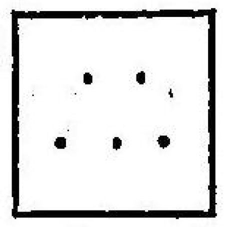
第二節　イラン地方 (IRAN)

インドの西、アジア洲の西部にある一大高地なり。(一)アフガニスタン (AFGHANISTAN)、(二)ベルチスタン (BALUCHISTAN)、(三)ペルシア (PERSIA) の三部に分つ。

一　ペルシア (PERSIA)

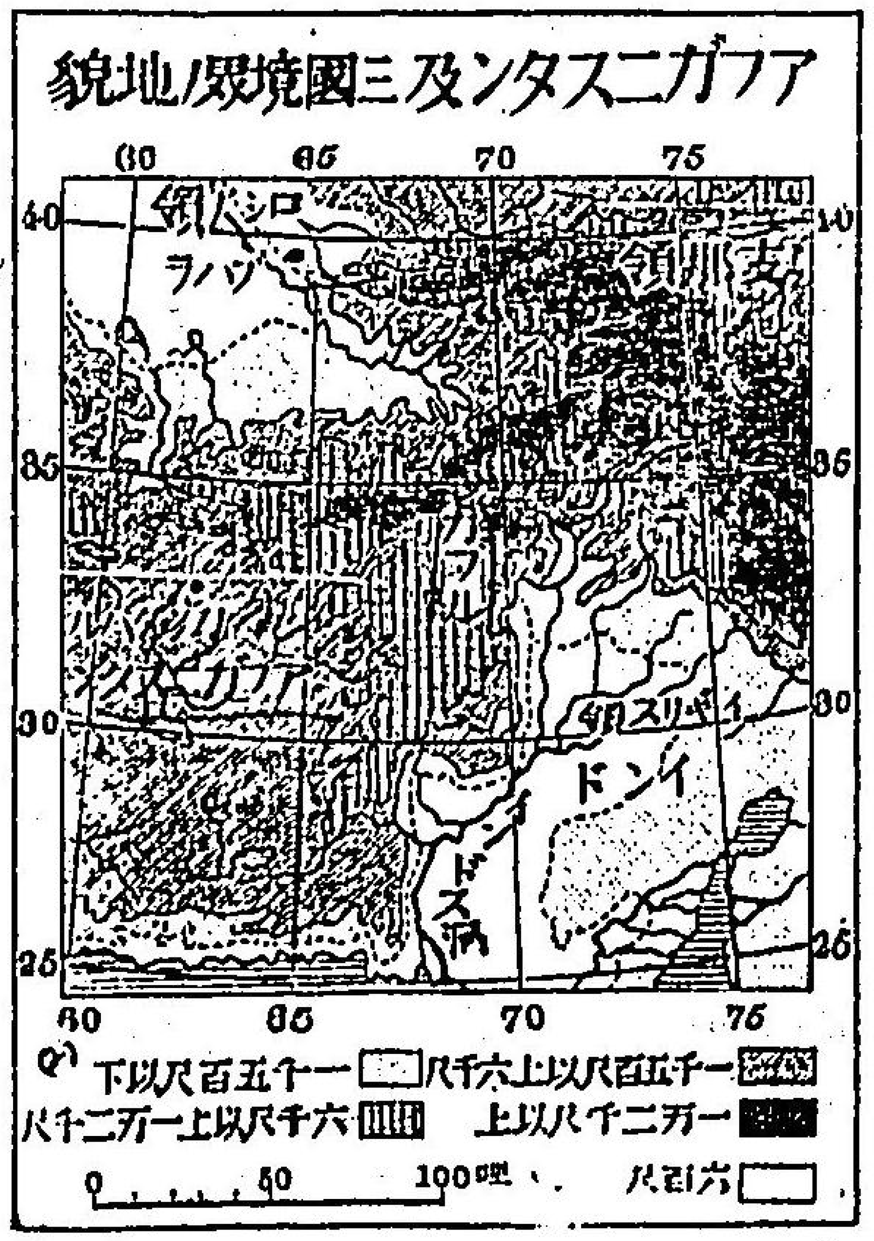
イラン高原の西部に位し、裏海とペルシア灣との間にあり。裏海の沿岸は、大概ロシアの所領となり、ペルシア灣には、イギリスの勢力盛んなるを以て、此國はロシアとイギリスとの勢力の間に介在して獨立するものとす。裏海及びペルシア灣の沿岸には、山脈連なり、海風を遮斷するを以て、內部は不毛の沙漠多く、沿岸に米、果物類を産するに過ぎず。政體は君主專制にして、首府テヘラン (TEHERAN) は北部にあり。

面積三萬六千方里

面積二萬二千方里
人口一百五萬
一方里人口

每一點十人

二　アフガニスタン (AFGHANISTAN)

ロシア領中央アジアとイギリス領たるインドとの間にあり、故にロシアとイギリスとの爭地となる。氣候は純然たる大陸性にして、寒暑共に烈しく、人情は慘忍なり。首府カブル (KABUL) は、インドよりロシア領中央アジアに通ずる衝路にあるを以て、戰略上及び商略上、甚だ重要なる位置を占む。

アフガニスタン及三國境界ノ地貌


三　ベルチスタン (BALUCHISTAN)

アフガニスタンの南にあり。ケタ (QUETTA) は、インド鐵道の終點なれば、イギリス兵衛戍し、此國はイギリスの保護を受く。

第三節　アラビア (ARABIA)

アデン港

アジア洲の南西にある世界第一の大半島なり。海岸は出入少く、氣候炎熱にして、内部は沙漠なれば、此の國人は、自國風土の不良なるを以て、進みて屢アジア・アフリカ及びヨーロッパの沃土を占領し、今日に至るも四方に行商するを常となせり。

ムハメッド(MUHAMMED)、此國より起り、始めて回教を唱へ、劍を提げて四方にこれを布けり。**メッカ**(MEKKA)に其の產地あり、**メヂナ**(MADINA)に其の墳墓あり、共に回教徒の『靈場』たり。

内地には酋長所々に割據すと雖も、海岸は大概トルコに屬せり。紅海と**アラビア海**(ARABIANSEA)との口を扼するアデン及び其の附近は、要害の地にして、イギリスに屬せり。**アデン港**(ADEN)はアジア洲の南西部に於けるイギリスの通商上及び軍事上の根據地にして、日本郵船會社の航路に當る。

第四節　アジア・トルコ (ASIAGO TURKEY)

一、境域。　アジア洲の西端に位し、我國の面積に四倍す。

一方里人口

・・

每一點百人

二、氣候。産物。 寒暑の差甚しけれども、死海(DEAD SEA)及び地中海(MEDITERRANEAN SEA)の沿岸は温和なり。産物は穀類、果物、棉花などなり。**アンゴラ**(ANGORA)地方の山羊は長き柔かなる毛を産し、其の名世に高し。

三、住民。 蒙古人種のトルコ族最も多く、トルコの國都及び皇帝は、ヨーロッパ・トルコにあれども、トルコ帝國の實力は全く此處に存す。海を隔てゝ**ギリシア**(GREECE)と相對するを以て、白人種たるギリシア人も多く住し、商業に從事せり。

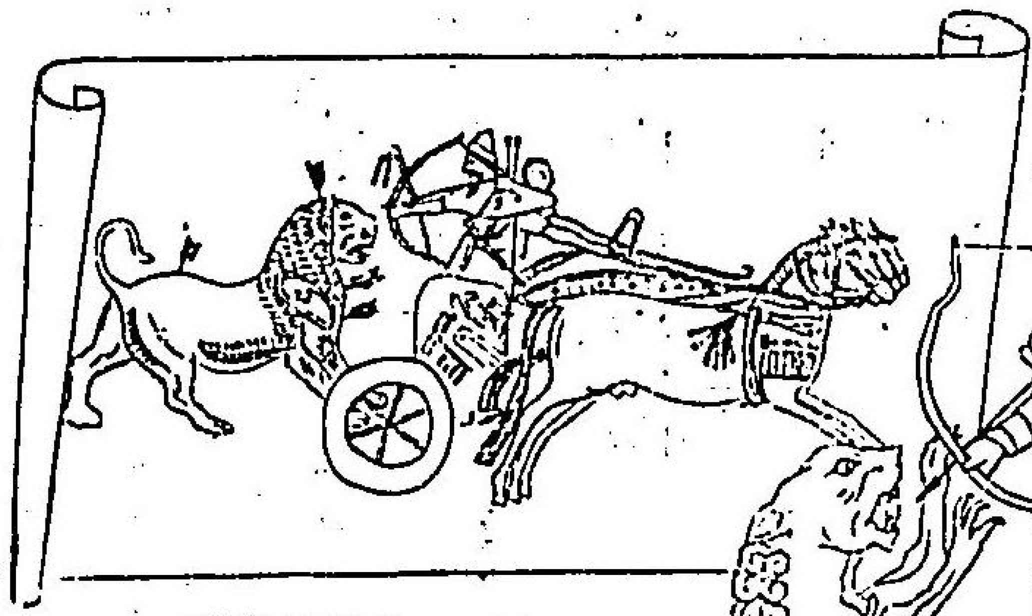
四、地方誌。 (一)**小アジア**、(二)**シリア**、(三)**エウフラト・チグリス・**谿谷の三部に分つ。

(一)小アジア(ASIA MINOR)。 アジア洲の極西、黒海と地中海との間にあり。一水を隔ててヨーロッパ洲に對し、海岸は出入多く、港灣及び島嶼多ければ、航通の便多く、アジアとヨーロッパとの間

に橋となり、古昔兩大洲の文化及び産物を交易せし衝路となり、古史に有名の都邑多く、舊蹟散在せり。西岸の中央、海岸の出入最も多く、且つギリシアに對する所に**スミルナ**(SMYRNA)あり、古來有名の港にして、今にアジア西部第一の都會たり。

(二)シリア。 地中海の極東に濱する地方を云ふ。**死海**(DEAD SEA)の水面は、海面より低きこと一千三百尺、其の所在は、世界第一の低地なれば、此湖は其の水を排出することを得ず、淡水のみ蒸發し、鹽分殘るを以て、水は殊に鹹く、魚類生育せず、故に此名あり。近傍は基督教の起源地にして、**イェルサレム**(JERUSALEM)に耶蘇(ヤソ)基督(キリスト)の墳墓あり、其の教徒は此の地方を『靈土』と稱ふ。

(三)エウフラト・チグリス(EUPHRATES TIGRIS)**谿谷。** エウフラト及びチグリス二河の灌域は、平坦肥沃にして、氣候暖熱、物産多く、大古小麥



アッシリアの車騎

日本大和法隆寺藏
四天王旗の中の人物

の野生せるものありしと傳ふるほどなれば、古代人民繁殖し、**バビロニア**(BABYLONIA)及び**アッシリア**(ASSXIRIA)の二大帝國此處に起れり。　アッシリアの文明は、支那の古代の藝術に感化を及ぼし、引て我國古代(奈良朝)の藝術にも波及せりとの説あり。

第五章　アジア洲の島嶼

第一節　マライ群島(MALAY ARCHIPELAGO)

一、境域。　アジア及びオーストラリア二大陸の間に散在し、インドの南にあるを以て又**東インド諸島**(EAST INDIAN ARCHIPELAGO)とも稱ふ。

二、氣候。産物。　諸島は、全く熱帶にありて、赤道其の中間を横絶すれば、氣候炎熱にして、水蒸氣多く、隨て雨も多ければ、植物繁茂し、米、珈琲、砂糖、香料の類を産す。

三、地方誌。　**マライ諸島**は、(一)**大スンダ**(SOENDA)**諸島**、(二)**小スンダ諸島**、(三)**モルッカ**(MOLUCCA)**諸島**、(四)**フィリピン**(PHILIPPINE)**諸島**の四部に分つ。

一　大スタンダ諸島(GREAT SOENDAS)

スマトラ(SUMATRA)、**ジァバ**(JAVA)、**ボルネオ**(BORNEO)、**セレベス**(CELEBES)などの大島より成り、其

スマトラ 面積二萬七千方里 人口三百萬 一方里人口 毎一點百人

ジャバ 面積八千四百方里 人口二千九百萬 一方里人口 毎一點百人

ボルネオ 面積四萬一千方里 人口百三十萬 一方里人口 毎一點十人

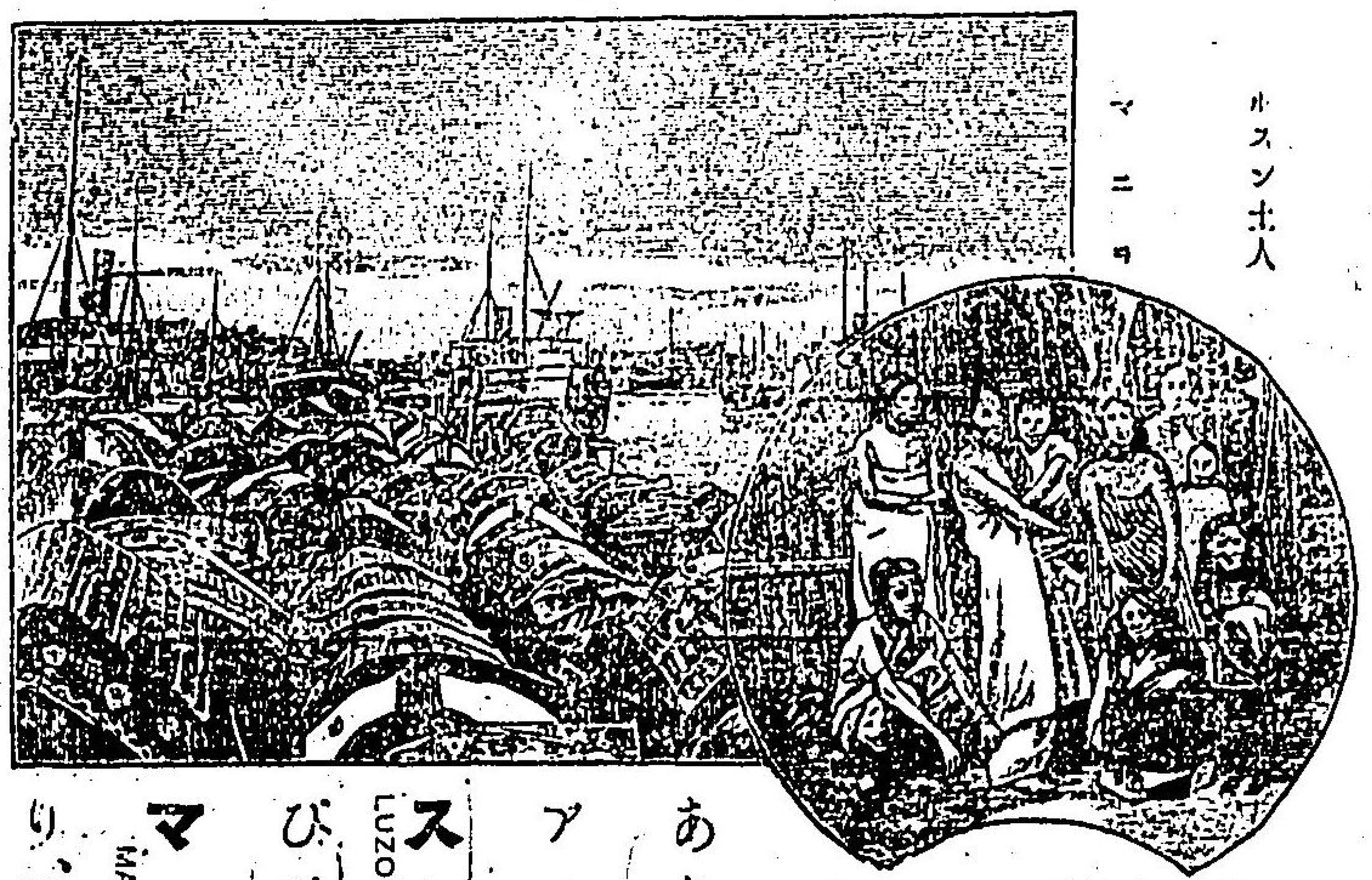
の内、ボルネオの一部を除くの外、他はオランダに屬す。

スマトラは、其の面積我國と同じ。**ジャバ**は、マライ諸島中、最も開明せる島にして、鐵道は島内を横貫し、首府**バタビア**にはオランダ領マライ諸島の總督駐在し、徳川氏の頃、我國と往來頻繁なりし處なり。**ボルネオ**は、世界第二の大島にして、我國よりも遙かに大なり、其の大半はオランダに屬し、北西部はイギリスに屬す、石油を産し、我國にも輸入し來る。

二　小スンダ諸島(LESSER SOENDAS)

ジャバの東に連なる諸島にして、東端なる**チモル島**の東部は、ポルトガルに屬し、他の諸島はオランダに屬す。**バリ**及び**ロンボク**二島間の海峽は、水深く、且つ生物分布の境界をなすを以て、アジアとオーストラリアとの境界となすことあり。

面積二萬方里 人口八百萬 一方里人口 毎一點百人



ルソン土人

マニラ

三　モルッカ諸島(MOLLUCAS)

セレベスの東に連なる諸島にして、多く香料を産すれば、又**香料諸島**の名あり、皆オランダに屬す。

四　フィリピン諸島(PHILIPPINES)

モルッカ諸島と我が臺灣との間にありて、イスパニア領なりしが、近くアメリカ合衆國の領となれり。**ルソン**は最も大なる島にして、烟草及び砂糖を産し、我國にも輸入す。首府**マニラ**は、我が郵船會社の航路に當り、日本居留民多く、我が領事館あり。

大平洋に散在する島嶼は南方にあるを以て『南洋諸島』とも稱ふ
面積六十萬方里
人口六百萬
一方里人口 每一點十人

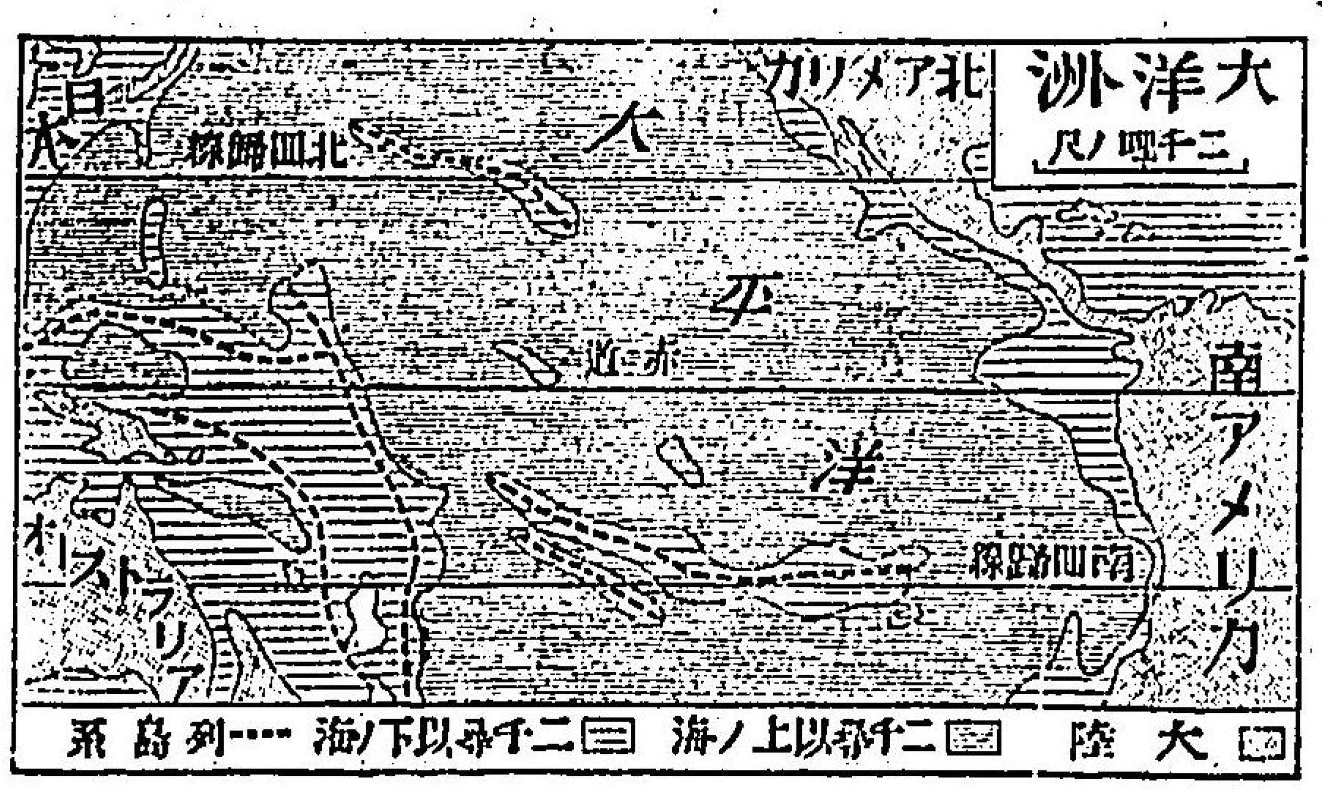
第二編 大洋洲 (OCEANIA)

第一章 總論

一、位置。 我が小笠原諸島の南より大平洋に散在する島嶼とオーストラリア(AUSTRALIA)との總稱なり。

二、面積。人口。 面積凡そ六十萬方里、人口六百萬、盡くヨーロッパ諸國の所領なり。

イギリス領	五三〇、〇〇〇方里
オランダ領	二五、〇〇〇方里
ドイツ領	一六、〇〇〇方里
フランス領	一、五〇〇方里



中立地ニューヘブライズ諸島

アメリカ合衆國領	九〇〇方里
イギリス・フランス中立地(ニューヘブライズ諸島)(NEW HEBRICES)	九〇〇方里
大洋洲總計	五七四、三〇〇方里

三、區分。 區域甚だ廣きを以て、**オーストラリア**(AUSTRALIA)**・メラネシア**(MELANESIA)**・ミクロネシア**(MICRONESIA)**・ポリネシア**(POLYNESIA)の四部に大別す。

第二章 概說

大洋洲は我國の南より連なり、水陸の產に富めるも、土人は幼稚なれば、我が國人の事業を經營するに恰好の處なり。**オーストラリア**聯邦及び**ニュージーランド**(NEW ZEALAND)は、日進月就の勢あれば、我が國人が貿易の好市場となすべく、更に彼此四季

の顚倒するを以て、相互に時候後れの製造物を交易し得べし。 ハワイに至ては、我が國人の數、其の人口の半に達するを以て、更に一層移住を振作せざるべからず。 近年大平洋の海底電線二條竣工したるを以て、大平洋は、將來益發達すべく、列國の趨勢大平洋に集中せんとする今日に當り、我が國人は此間に雄飛せんことを期せざるべからず。

面積五十萬方里
人口四百萬

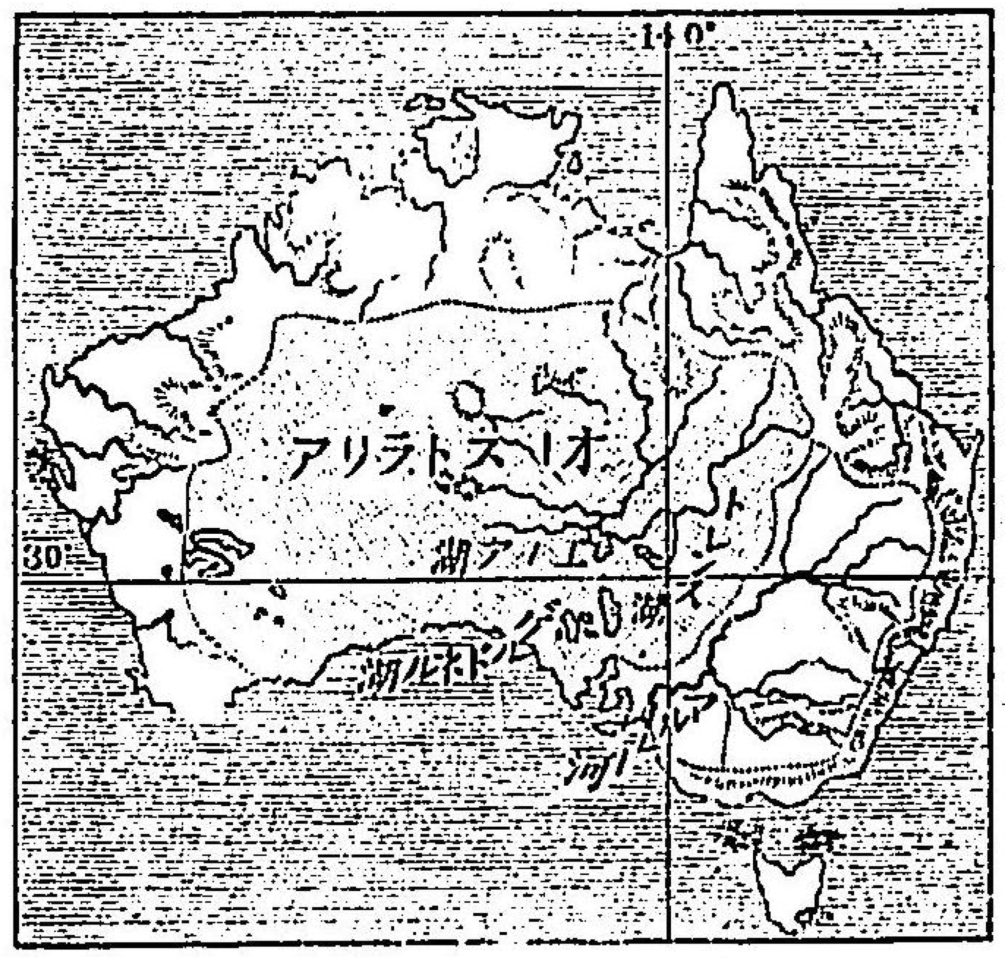
一方里人口
每一點一人

第三章 オーストラリヤ (AUSTRALIA)

一、位置。 **オーストラリア**は、我國に二十倍する島なり、されば大陸とも呼びなせり。 赤道を隔て、我國及びアジア洲と相對し、オーストラリアとは『南のアジア』の義なり。

二、地勢。 海岸は單純にして、出入なく、地形も亦單純にして長方形をなせり。 大山脈なく、隨て大なる河湖なし。

三、氣候。 赤道、北にあるを以て、北部は炎熱にして、炎熱なる北風吹けども、南部は温和若くは寒冷にして、南風は寒冷なり。



東部は山脈、海岸に並行し、大平洋よりの水蒸氣これに衝突すれば、雨多けれども、此の水蒸氣は、此の山脈に遮斷さるゝを以て、內地と西部とは雨少く、二三年間一雨なきことあり、隨て炎熱甚しく、沙漠連なるを以て、近年堀拔井を穿ち、沙漠に灌注せんと計畫中なり。

我國は冬には麥稈帽子、日傘などを要せざる頃、此地にては恰かも需用す、又此地のクリスマス及び元旦には夏物を要す

我國と此の大陸とは、赤道を隔てゝ相對し、北半球と南半球とは、四季の順序反對し、我が元旦は寒冷、彼の元旦は炎熱なり、されば彼我ともに時候後れの製造物を交易し得べし。

○四、天産物。　他地方に見ざる特有の動植物多く、重もなる植物はユーカリ樹(濠洲護謨樹)なり、動物にはエミュー、カンガルー、鴨嘴(かものはし)の如き奇形の鳥獸あり。

金の産出多く、此の大陸が其の初め長足の進歩を遂げたるは

七十年前、白人八萬人、内二萬は囚徒なり、今や四百萬となる

七十年前、メルボルンに一白人なし、今やイギリス全帝國第六位の大都會となる

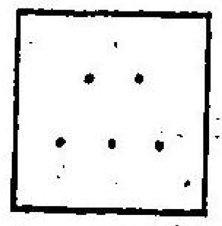
金の發見に因る。　石炭も亦甚だ多く、隨て製造工業も日々に發達す。　其他銀、銅、鉛にも富めり。

五、住民、政治。　固有の土人は、野蠻にして、次第に減少し、現今は五万人に過ぎず。　されば四百餘萬の住民は重もに、イギリス人の子孫なれば、人情活潑にして、起業心に富めり。教育は頗る進歩し、完全なる大學校三個あり。

オーストラリア大陸、タスマニア(TASMANIA)及びニュージーランド(NEW ZEALAND)は、イギリスの領地にして、皇帝より各州に總督を駐在せしむ。されども政治は全く自治に任じ、各州に議會を設け、責任內閣の制を取れり。　又オーストラリアの五州と、タスマニアとを以て聯邦を組織し、其の上に大總督を置く。

○六、生業。　牧畜を主とし、牧羊最も盛んにして、羊の數は世

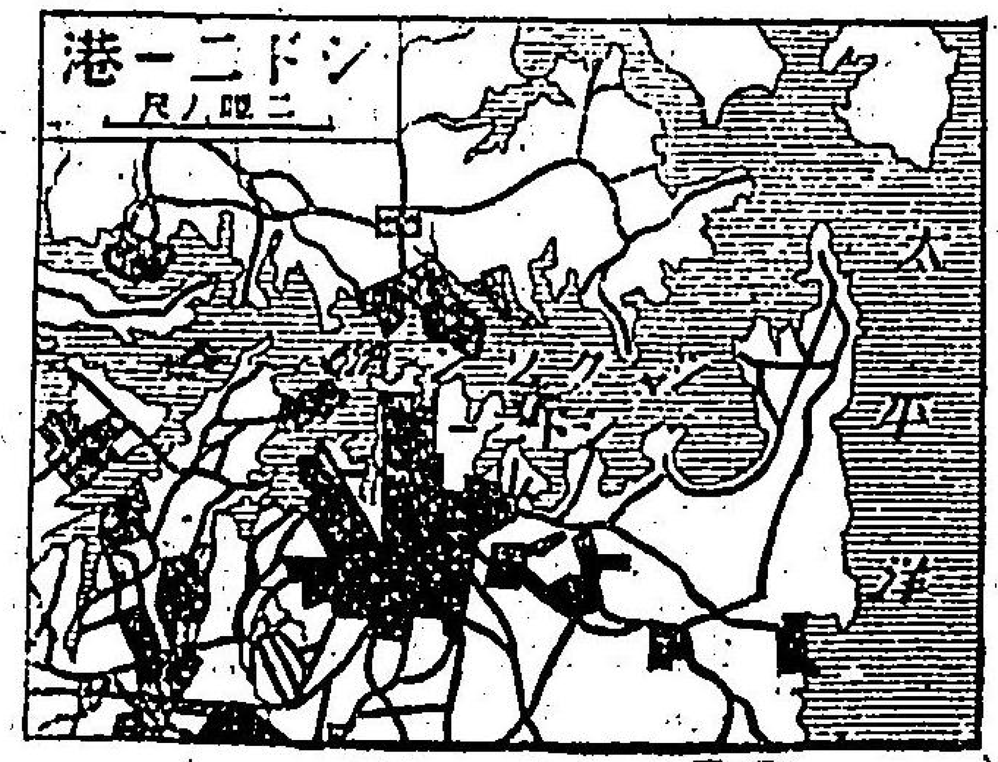
面積十一萬方里
人口五十五萬



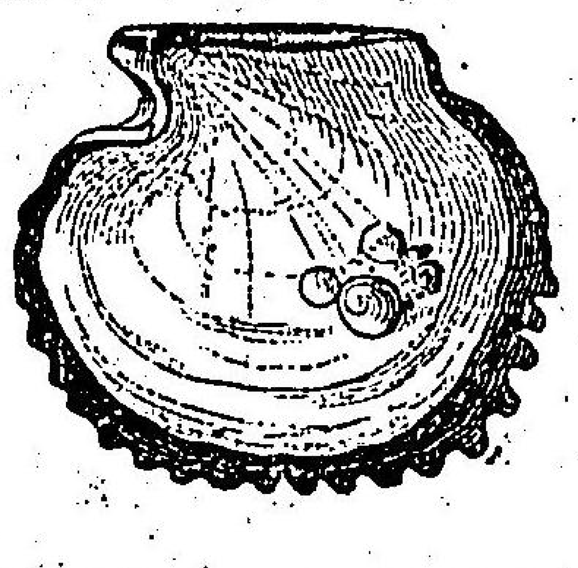
タウンスビル附近居留日本人一千五百

界第一なり、金、石炭及び鉛の採掘も盛んなり。されば我國へも羊毛、獸皮及び鉛を輸出す。人民一人の所得大なれば我國より絹物及び雜貨を輸入すること年々に增加す。

七、地方誌。 オーストラリア大陸を**クインスランド、ニュー・サウス・ウェールス、ビクトリア、南オーストラリア**及び**西オーストラリア**の五州に分つ。

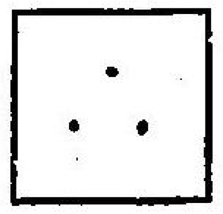


(一)クインスランド州。(QUEENSLAND) オーストラリア大陸の南東部にあり。首府**ブリスベーン**(BRISBANE)の港は、日本郵船會社の航路に當れり。其の北西は、砂糖の耕作盛んにして、我が移住民多く、**タウンス**(TOWNSVILLE)

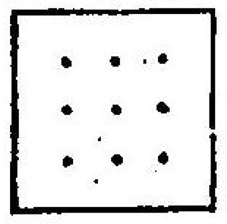


木曜島附近居留日本人一千

面積五萬二千方里
人口一百四十五萬



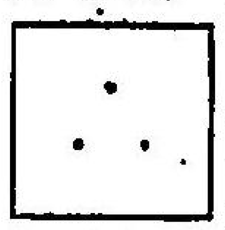
面積一萬五千方里
人口一百三十五萬

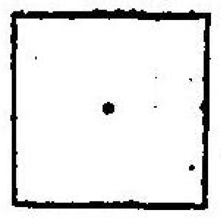


ビルは、日本郵船會社の航路に當り、我が領事館あり。其の北西、**ヨーク海角**(YORK)は、此の大陸の最北端に位し、其の海上の**木曜島**(THURSDAY ISLAND)には、我が國人の眞珠貝を採集するもの多し。

(二)ニュー・サウス・ウェールス州。(NEW SOUTH WALES) クインスランドの南にあり。オーストラリアの最も舊き植民地にして、首府**シドニー**(SYDNEY)は、大都會なり、人口六十萬、イギリスのオーストラリア艦隊の根據地となり、其の港は日本郵船會社の航路に當り、我が總領事館あり。

(三)ビクトリア州。(VICTORIA) オーストラリア大陸の東南隅にありて、面積小なれども、人口最も多く、首府**メル**


面積十五萬方里
人口四十萬
一方里人口
每一點一人


日本人七百
面積十六萬方里
人口二十萬
一方里人口
每一點一人

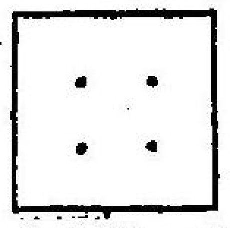
ボルン(MELBOLUNE)は、人口六十萬、シドニーと人口及び繁昌を爭ひ、日本郵船會社の航路に當る。

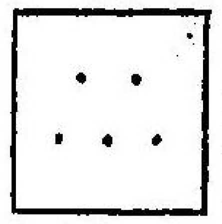
(四)南オーストラリア州(SOUTH AUSTRALIA)。 オーストラリア大陸の中部を縱斷する大州なり。 首府アデレード(ADELAIDE)は、南岸にあり、電線は此處より大陸を縱斷し、北岸のポート・ダーウィン(PORT DARWIN)に出で、それより海底電線はインドに通ず。 北岸には我が出稼人少からず。

(五)西オーストラリア州(WEST AUSTRARIA)。 オーストラリア大陸の西半を悉く占むる最大州なり、されども內地は不毛にして、各州中最も開けざる部分とす。 首府パース(PERTH)は西南岸にあり。

(六)タスマニア州(TASMANIA)。 オーストラリア大陸より近く東南の海上にある島なり。 島內山聳え、谿谷開き、湖多く、風景明媚にして、氣候温和に、人情も温和なれば、『南球の養生地』と稱へらる。 鑛産及び牧畜盛んなり。 首府をホバート(HOBART)と云ふ。

(七)ニュージーランド州(NEW ZEALAND)。 オーストラリア大陸より東南の海上にある南北の二大島より成り、地形は我國の如く細長く、我國の如く山多く、温泉多く、その最高峰の形も我が富士に似、氣候も我國に類し、地文上、多く我國に類似せり。 穀類を産し、牧畜及び鑛業も盛んなり。 首府ウェリントン(WELINGTON)は、北東岸にあり、北岸のオークランド(AUCKLAND)は、全州第一の都會なり。


面積四千六百方里
人口二十萬
一方里人口
每一點十人


面積一萬八千方里
人口九十萬
一方里人口
每一點十人

第四章　メラネシア (MELANESIA)

面積五萬二千方里
人口七十萬

一方里人口
每一點十人

メラネシアは、オーストラリア大陸の東北にある島嶼の總稱にして、熱帶に散布し、季候風を受け、雨多ければ、植物繁茂し、木材、果物、コプラ、砂糖などを産す。大なる島を除くの外は、火山島若くは珊瑚島にして、近海には、眞珠多し。土人は、**パプア**族に屬し、皮膚黑く、頭髮羊毛の如く捲縮し、食人の陋習を有するものあり。メラネシアとは『黑人州』の義パプアとは『羊毛の如き髮』の義なり。重もなる島は左の如し。

(一)ニューギニー。 NEW GUINEA 我が眞珠採取者の群住する木曜島 THURSDAY ISLAND と一水を隔て丶北にあれば、我が國人の住居するものあり。面積我國に二倍し、世界第一の大島にして、西半はオランダに屬し、東半の南部はイギリス、その北部はドイツに屬す。

(二)ビスマルク諸島。 BISMARCK ニューギニーの北東に位する群島にして、ドイツに屬す。

面積一千三百方里
人口五萬
居留日本人一千餘

一方里人口
每一點十人

(三)ソロモン諸島。 SOLOMONI ビスマルク諸島の南東にあり。その北東部にある島は、ドイツに屬し、其の他はイギリスに屬す。

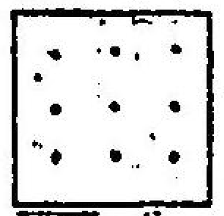
(四)新ヘブライヅ諸島。 NEW HEBRIDES イギリス領なるソロモン諸島とフランスの南洋根據地なる新カレドニアとの間にある島嶼なれば、イギリス及びフランスの合同保護地となり、その所領問題に關し、屢〻外交上の紛糾を發する所とす。

(五)新カレドニア。 NEW CALEDCNIA 新ヘブライヅ諸島の南東に位し、フランスに屬し、その罪囚流謫地なり。我が國人のニッケル採掘に從事するものあり。

(六)フィージー諸島。 FIJI 新ヘブライヅ諸島の東にある島嶼にして、百八十度の子午線に接近す。イギリス領にして、南洋諸

島の中央に位し、北アメリカよりオーストラリア及びニュージーランドに至る汽船の寄港所に當り、交通の要衝にあれば、イギリスより總督兼西大西洋委員長を駐在せしむ。

面積一千三百方里
人口十二萬

一方里人口

毎一點十人

第五章　ミクロネシア (MICRONESIA)

ミクロネシアは、我が東京府管轄の小笠原諸島、硫黄諸島とメレネシアとの間にある火山質若くは珊瑚質より成る群小島にして、ミクロネシアとは『群小州』の義なり。

最も東にあるは、イギリス領の**ギルバート**(GILBERT)**諸島**及びドイツ領の**マルシャル**(MARSHALL)**諸島**なり、マルシャル諸島には、我國の帆船時々往來して土人と交易す。中央にあるは**カロリン**(CAROLINE)**諸島**にして、元とイスパニア領なりしが、近年ドイツに賣り渡せり、我國の帆船交易の爲め往來す。最も北なるは、**マリアナ**(MARIANNE)**諸島**にして、我が南硫黄島と指呼の間にあれば、我が帆船時々出入す。此の諸島も、元とイスパニア領なりしが、その最大なる**グアム**(GUAM)**島**は、近く戰敗の結果、アメリカ合衆國に讓與し、其の他はドイツに賣り渡したり、グアムは合衆國の大平洋岸より其の新領地マニラ(MANILA)に達する海底電線の中繼所なり。

第六章　ポリネシア (POLYNESIA)

ポリネシアは、大洋洲の東部を占むる島嶼の總稱にして、火山島若くは珊瑚島より成り、ポリネシアとは『多島州』の義な

面積八百四十方里
人口十六萬

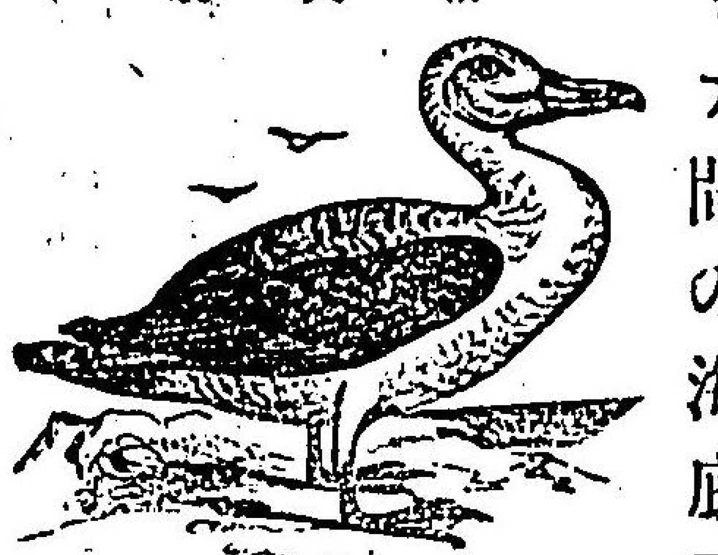
一方里人口
每一點百人

り。熱帶に散布すれども、海風の爲めに氣候温暖なり。果物、コプラ、珈琲、砂糖などを產す。重もなる島は左の如し。

(一)ハワイ(HAWAII)。赤道の北にある十二の島嶼より成り、我が橫濱の東南三千四百浬にあり。面積我が九州の三分の一に過ぎず、人口十五万、殆ど半數は日本人にして、固有の土人は三万人、其の他は支那人及び西洋人なり。元と獨立の王國なりしが、土人は西洋人の移住後、劣敗して減少し、遂に明治三十三年アメリカ合衆國に合倂せり。產物は砂糖を第一とするを以て、我國の移住民は、甘蔗の耕作に從事せり、牧羊亦行はる。諸島中、**ハワイ島**は最も大にして、我が國人多く移住す。首府**ホノルル**(HONOLULU)は**オアフ**(OAHU)島にありて、南洋屈指の良港なり、我が東洋汽船會社の航路に當り、日本總領事館あり。

ハワイ諸島は、大平洋の中心に位し、北アメリカよりオーストラリアに至る中央にあれば、船舶交通の衝路に當り、アメリカ合衆國の沈設せし其の大平洋岸及びマニラ間の海底電線も、イギリスの沈設せしバンクーバー(VANCOUVER)及びオーストラリア間の海底電線も、共に此島を以て中繼所となせり。

信天翁



ハワイと我國との間に點散する小島には、我が國人の信天翁(あほうどり)チサ鳥などの羽毛を採集するもの少からず。

チサ鳥

(二)トンガ諸島(TONGA)。フィジー諸島の南東にあり。イギリスの保護國にして、土人の王これを支配せり。

(三)サモア諸島(SAMOA)。トンガ諸島の北東に位する三大島より成

る。元と獨立の王國なりしが、近年に至り、その二島はドイツ領となり、一はアメリカ合衆國領となれり。

(四)ソシエテ諸島。（SOCIETY）サモア諸島の東にあるフランス領の諸島なり。最も大なるは**タヒチ島**（TAHITI）にして、氣候の佳良、風光の明媚と土人の順柔とを以て、南洋の樂土と稱へらる。

地理教科書外國篇（上卷）終

明治三十七年一月廿六日印刷
明治三十七年一月廿九日發行
明治三十七年三月十二日訂正再版印刷
明治三十七年三月十五日訂正再版發行

地理教科書外國編上卷奥付

定價金四拾錢

著作權所有

著作者　志賀重昂
發行者　東京市神田區裏神保町九番地　合資會社冨山房
代表者　合資會社冨山房社長　坂本嘉治馬
印刷者　東京市神田區三河町一丁目十四番地　石井要藏
印刷所　東京市神田區三河町一丁目十四番地　合資會社丸利商會

發兌元（二十九年六月設立）　合資會社冨山房
長距離加入（電話本局一〇三六番）電信略號ヤマフ

落後生 吉田東伍先生著

大日本地名辭書

本書は一般地學、文學、歷學研究者座右の珍寶たるに止まらず神道佛教の諸家は之に由りて廣く社寺の緣起を知るを得べく軍人將士は之に由りて攻城野戰の實蹤を考ふべく文雅詩歌の士は以て雄篇佳什の感興に益すべく探勝遊行の客は以て登覽訪尋の指針に資すべく其他學校に在りては郡志郷土史の大文庫たり官衙に在ては祕室の帳中祕たり私人に在りては架頭の巾箱本たるべし

大本 六號活字卅一行廿四字詰三段 總紙數凡四千

冨山房編輯部編輯

ふざんぼう 最新日本地圖

▲縱八寸五分 ▲横一尺五分 大形 上製金一圓 郵税金拾錢 並製八十錢 郵税金八錢

石版刷總着色 區畫の正、位置の確、坊間流布のものと全く其撰を異にし本邦無二の大且つ精なるもの也

理學士 山上萬次郎先生著

新撰大地誌

外國部完結 ▲卷一亞細亞、卷二歐羅巴、卷三南北アメリカ及オセアニア ▲每卷讀切完結 紙數各卷四百頁內外 ▲定價、各卷金壹圓參拾錢 小包料各十五錢ツヽ

理學士 山上萬次郎先生著

新撰大地文學

編述之要項(既刊之部)

卷之一 地球星學及氣圈學
卷之二 靜的海洋學
卷之三 動的海洋學
卷之四 宇宙開闢論
卷之五 數理地理學(地圖製作法)
卷之六 地球星學續篇(以下追出)

定價 各卷五拾錢 郵税各六錢

全部十五卷 紙數凡三千頁

理科大學教授 理學博士 横山又次郎先生著

增訂改版 地質學教科書

菊判全一冊 挿畫豐富 定價金壹圓 郵税金十錢

本書は新研究により新學說を說き特に學說の沿革を詳にし且つ泰西諸家の粹を拔き本邦最新發見の事實を蒐めたるものなれば地文教授の術に當るものゝ好伴侶たるは勿論火山地震氣象等凡て地殼に關する現象に注意する人は必ず一讀を要すべき近來稀有の一大好著述也

理學博士 横山又次郎先生著

地質學掛圖

各圖金六拾錢 小包料一圖二百匁 縱三尺六寸 横二尺六寸

本書は前世界の各時代に産せし特有化石を掛けるものにして目下他に比類の掛圖なければ中學師範等の學校に於て博物學教授の際前世界に於ける化石の大要を示すに須臾も欠くべからざる珍品なり

既刊 第一圖 寒武利亞紀及志留利亞紀化石 第二圖 泥盆紀化石 第三圖 石炭紀化石 第四圖 石炭紀及二疊紀化石 第五圖 三疊紀化石

近刊 第六圖 侏羅紀化石 第七圖 白堊紀化石 第八圖 第三紀化石 第九圖 第四紀化石

理學博士 横山又次郎先生著

地文地圖

菊判美本 縱七寸横一尺 全二十九枚

石版着色印刷鮮明にして地文學を學ばらるゝ諸君の爲めに編成せるもの最近世界地文の狀態を表示して餘蘊なし而して其價廉なり。(定價八十錢郵税金八錢)

横山博士著

地球の過去及未來

全一冊

石版着色日蝕圖入 定價廿五錢 郵税二錢

本書は地球が如何にして現はれ今後如何なる運命災害に遇ふべきかの學術界の大問題を捉へ最新の學説を蒐めたり記事快活、事理明晰、文章通俗平易、議論正確奇抜、近來稀有の好著なり其趣味深きは勿論我地球が**早晩滅亡**せざるべからざるを論破して餘蘊なきもの也。

志賀重昂先生著

日本地理
外國地理
地文學

印刷中

右は中學教科用書として一異彩を發ち地理教授上に新紀元を劃するものこれこの地理學書の特色也。

山名留三郎先生著

鎌倉舊蹟地誌

洋裝(地圖入) 定價卅錢 郵税金四錢

文學博士 重野安繹先生序并監修
陸軍教授 依田雄甫先生編

漢文 世界地圖

圖面縱一尺四寸横二尺
石印色刷鮮明美麗精確詳密最新唯一之世界大地圖也。

冨山房編輯部編纂(新刊)

袖珍 最新世界圖

全廿六圖附錄數十頁 定價金五拾錢 郵税金六錢

冨山房編輯部編纂(新刊)

袖珍 最新日本圖

全圖附錄數十頁 定價金五十錢 郵税金六錢

理學博士 横山又次郎先生著

地文學教科書

全一冊 洋裝 定價壹圓拾錢 小包料拾錢

同

地文學簡易教科書

全一冊 洋裝 定價四拾錢 郵税六錢

同

地質學簡易教科書

全一冊 洋裝美本 定價四拾錢 郵税六錢

理學士 山上萬次郎先生著

新撰地文學

全一冊 洋裝美本 定價壹圓 郵税拾錢(文部省檢定濟)

地文書中簡要を得たるものは本書也。而も最新の調査によりて修補を加へたれば文部省檢定受驗者の師友として一般學者の參考書として最適切精良なるもの也

同

普通地文學

(文部省檢定濟) 全一冊 洋裝 挿畫地圖共三十四枚入 定價七十錢 郵税六錢

同

新撰小地文學

(文部省檢定濟) 全一冊 洋裝 定價五十錢 郵税六錢

同

新撰中地文學

(文部省檢定濟) 全一冊 洋裝 定價壹圓貳拾錢 小包料拾錢

同

近世 地文學教科書

(文部省檢定濟) 全一冊 洋裝 定價五拾錢 郵税六錢

袖珍名著文庫

饗庭篁村　上田萬年　諸校
幸田露伴　關根正直　先生
芳賀矢一　藤岡作太郎　訂
宮崎三昧　尾崎紅葉

詩歌小說戯曲史傳記行隨筆雜論等每編國文學に關する珍本稀籍を網羅す

定價 每冊廿錢▲六冊壹円拾錢▲十二冊貳円廿二錢▲廿五冊四円六十錢▲五十冊九円▲百冊拾七円五十錢▲上製一冊八十錢▲別段價格特製

通俗世界文學

文學博士 坪内雄藏先生 監督 校閲
青年諸名家 執筆

世界文學の古今の傑作をば最清新なる筆を以て縮寫的に紹介したるもの

定價 每冊金廿錢▲六冊金壹円拾錢▲十二冊金貳円拾二錢▲廿五冊金四円六十錢▲全部五十冊金九円▲郵税一冊二錢付金六錢ヅヽ

少年世界文學

文學博士 坪内雄藏先生 監督 校閲
青年諸名家 編著

健全にして有益なる家庭の讀物趣味教育に資すべき現代唯一の少年讀本

定價每編金拾貳錢郵税每編金四錢

博物叢書

理學博士 石川千代松
理學博士 三好學 兩先生 合編

自然界に於ける最興味ある事柄を最巧妙なる方法を以て解說したるもの

定價每編參拾五錢▲六冊金二円〇四錢▲全部十二冊金四円▲郵税一冊二錢付金六錢ヅヽ

言文一致 農藝叢書

農學博士 横井時敬先生著

農に關する須知の事項を網羅す農業國に生れたる國民は必ず一讀を要す

定價 每冊金廿五錢▲六冊金壹円四十錢▲全部十二冊金貳円七十錢▲郵税一冊二錢付金六錢ヅヽ

日用理化叢書

博士學士諸大家校閲
師山侑順先生著

日常目睹の興味ある理化的事項を通俗に面白く分り易く記述したるもの

近刊

3

77

359